

一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **59**
支部だより 2019.10

目 次

Vol.59

・ 巻頭言「建設産業の担い手確保について」	宮城県 土木部長	門脇 雅之	1
・ 特別特集			
「魅力ある仕事や職場の創造に向けたウィークリースタンスの推進」	東北支部 対外活動部会 対外活動委員長	向田 昇	2
・ 海外紀行			
「令和元年度 JCCA・WAVE 海外インフラ事情調査 パナマ共和国・アメリカ合衆国 編」	(株)復建技術コンサルタント	江口 健二郎	6
・ 若手技術者の声			
「2年間で振り返り」	八千代エンジニアリング(株)	田代 太貴	8
・ 女性技術者が思う建設コンサルタント			
「建設コンサルタントとしての仕事と働きやすさ」	(株)オリエンタルコンサルタンツ	小野 ひかり	9
・ 技術士合格体験記	(株)建設技術研究所	高木 秀治	10
・ 私の趣味			
「～モバイルヲタクの独り言～」	(株)田村測量設計事務所	田村 道雄	11
・ 現場見学会			
「構造・道路専門委員会合同現場見学会に参加して」	大日本コンサルタント(株)	金子 昇平	13
	パシフィックコンサルタンツ(株)	石村 友里絵	15
「河川・環境専門委員会合同現場見学会に参加して」	セントラルコンサルタント(株)	中山 一紀	16
	八千代エンジニアリング(株)	下鳥 一樹	17
「地盤・防災専門委員会合同現場見学会に参加して」	日本工営(株)	尾崎 裕司	18
・ 新規会員の紹介「自然との共生を目指して」	(株)エース	藤田 伸二	19
・ 支部活動報告			
平成30年度 R C C M資格試験			20
平成30年度 R C C M登録更新講習会			21
平成30年度 意見交換会について			22
令和元年度支部定時総会			24
令和元年度「建設コンサルタントの要望と提案」意見交換会			25
9月2日「災害時対応演習」を実施			26
・ 委員会紹介			
「I C T専門委員会」	I C T専門委員長	市川 健	27
「50周年記念事業実行委員会」	実行委員長	松川 秀敏	28
・ 特集			
「E E 東北'19」			29
「令和元年度 東北支部会員 東北地方整備局優良業務表彰について」			33
・ 支部だより			39
・ 会員の動向			48
・ 東北支部 会員名簿			50
・ 編集後記	対外活動委員会 広報委員会 副委員長	佐藤 敏倫	52



建設産業の担い手確保について

宮城県 土木部長 門 脇 雅 之

1 はじめに

本年度は、「宮城県震災復興計画」の期間が残り2年となる中で、復興後を見据えた「ポスト復興」について、しっかりと取り組んでいかなければならない時期となっております。

その様な中、建設産業においては、人口減少、超高齢社会の到来に伴う担い手不足、激甚化や頻発する自然災害への対応、これまで整備してきた既存インフラのメンテナンス問題など、課題が深刻化してきております。

中でも担い手不足については、「担い手三法」の改正による「働き方改革」などの取組を通し、国を挙げて取り組んでいるところですが、県といたしましても地域の社会資本を支える建設産業が、持続的に活躍して頂けるよう、人材確保の取組について、しっかりと進めていかなければならないと考えております。

2 宮城県における担い手確保対策

担い手不足の対策の一つとして生産性の向上が挙げられますが、我が県においても、i-Constructionの推進に取り組んでおり、平成29年度からICTモデル工事を実施し、今年度からは受注者希望型によるICT施工を本格導入しております。

ICT導入の課題としては、資金面やノウハウの点から、特に中小建設業者において普及が進まないことが想定されます。

このことから、ICT建機のレンタル会社や、3次元測量・データ作成を行う測量設計会社とのマッチングを図ることで、お互いの業界がウィンウィンの関係を築けるよう合同の研修会などを実施してまいります。

生産性の向上により、短縮された工期を休暇に振り向けることで、建設産業においても週休二日制を促進し、より良い労働環境の改善を図ることで、若手の入職希望者の増加につなげたいと考えております。

また、すでに時間外労働の上限規制が適用されている建設関連業においては、時間外労働を減らし、休日もしっかり休める環境を整えるため、ウィークリースタンスの取り組みも今年度から始めたところです。

今後、建設業界が将来にわたり持続的に発展してい

くためには、中長期的な対策も併せて必要であり、小学生を対象とした親子現場見学会や、高校生と技術者の意見交換、各建設業界と合同でのPRイベントなどにより将来の人材確保に向けても取り組んでおります。

3 入札契約制度における対策

我が県が採用する総合評価落札方式では、実績のある優れた技術者による応札となる傾向があるため、ベテラン技術者に比べ、若手技術者が実績を積みにくい状況となっています。

そこで、実績のあるベテラン技術者を管理補助技術者（工事は専任補助者）として配置し、総合評価の評価対象は管理補助技術者で行うことで、若手技術者や女性技術者が、管理技術者として活躍できる仕組みを導入しております。

また、これからの建設業界は、測量や設計の3次元化が加速的に進んでいくと考えられることから、ドローン等を活用した3次元測量や、設計等、新たな技術に対応していくことが求められ、今後さらに、若手技術者の確保・育成が必要となります。

そのためには、新たな設備投資や技術者の育成が必要となりますが、建設関連業務においては落札率の低下により、設備投資や人材育成にかかる予算確保が困難との声も伺っております。

県としましては、健全な企業の運営にかかる費用の確保に向けた、入札契約制度についても引き続き検討してまいります。

4 おわりに

以上、我が県の取組についてご紹介しましたが、これらの取組を通じて従来の建設業における3Kのイメージを払拭し、新たな3K「給与が良い・休暇がとれる・希望がもてる」の実現により、建設産業をより魅力的にすることが、新たな担い手確保に繋がるものと考えております。

担い手確保対策については、官民一体となり取り組んでいかなければならない課題と認識しておりますので、皆様におかれましても、引き続き、様々な場面の御協力をよろしくお願い申し上げます。

魅力ある仕事や職場の創造に向けたウィークリースタンスの推進

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部
 対外活動部会 対外活動委員会 委員長 向田 昇

建設コンサルタントが抱える課題の一つに長時間労働が挙げられます。所定外労働時間の上限規制等を導入する労働基準法の改正を伴う「働き方改革関連法」が2019年4月1日に施行されました。建設コンサルタントはサービス業に分類されることから、猶予なく「長時間労働の是正」が求められています。

こうした社会情勢を受け、業務プロセスにおいて「昼休みや16時以降開始の打合せは行わない」「休日明け日は依頼の期限日としない」「休前日は新たな依頼をしない」等を、一週間の行動ルール「ウィークリースタンス」として、受発注者が協働で取り組むことにより、所定外労働時間が削減できるよう、労働環境の改善を進めています。



3. 発注者の働き方改革

発注者の労働環境も変化しています。働き方改革関連法で、長時間労働は正に向けた改正労働基準法が成立したのを受けて、人事院は国家公務員の残業時間規制を改正しました。

2019年2月1日に人事院規則15-14（職員の勤務時間、休日及び休暇）が一部改正され、改正労働基準法と同様に2019年4月1日から施行されています。

超過勤務命令（時間外労働）の上限は、労働基準法の所定外労働時間の上限と同様であり、大規模模災害への対応など業務上やむを得ず残業が増える場合は規制の対象から外すとしていますが、明確な上限が設けられ、「指針」から法令に格上げされたことで、遵守しなければならない「規則」になりました。地方公務員も同様に各自治体の人事委員会規則が改定されています。



図-2 パンフレット

4. ウィークリースタンスの取り組み

第8回復興加速化会議（2017年12月16日）における国土交通大臣の発言を契機に、東北地方整備局企画部より「ウィークリースタンス等の推進について」（2018年4月6日）事務連絡が通知されました。

東北地方整備局と建設コンサルタンツ協会東北支部との意見交換会（2018年10月30日）において、改正労働基準法を遵守することが喫緊の課題であることを要望し、東北地方整備局からは「設計業務等の業務環境の改善について」（2018年11月28日）として図－3パンフレットが発信されました。

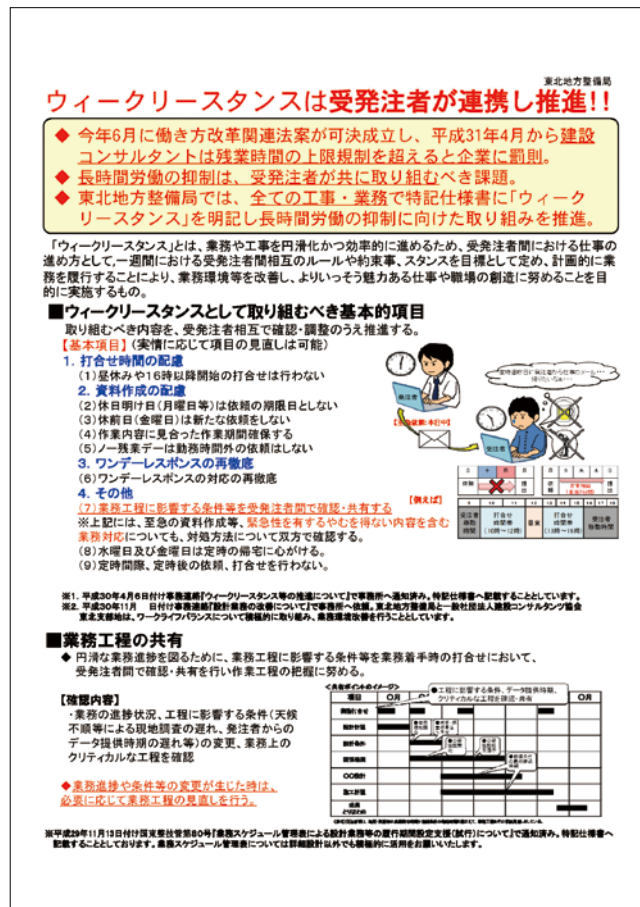


図-3 パンフレット

これに加え、東北6県および仙台市と建設コンサル
タント協会東北支部との意見交換会において、東北地
方整備局の事例として「特記仕様書にウィークリース
タンスを明記し、長時間労働の抑制に向けた取り組み
を推進している」ことを紹介したところ、これまでに
表-1「ウィークリースタンス取り組み項目一覧表」
に示される通知文書が発信されるなど、各自治体にお
いてもウィークリースタンスの取り組みが進行してい
ます。

各自治体において、打ち合わせ時間やノー残業デーの取扱い、ワンデーレスポンスの再徹底などに特色があり、これらの項目を受発注者協働で実践していくことが期待されています。

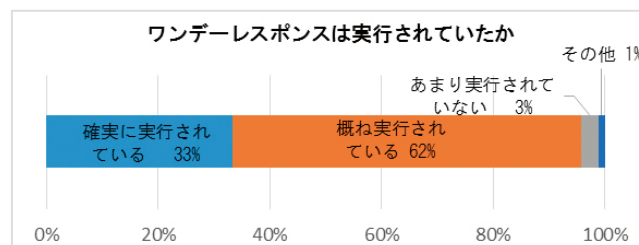
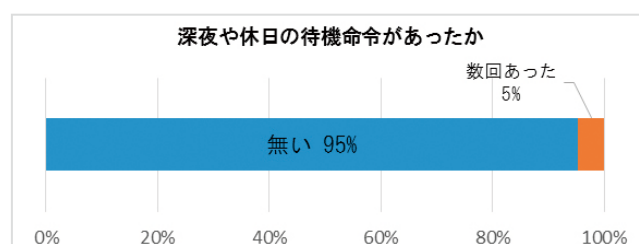
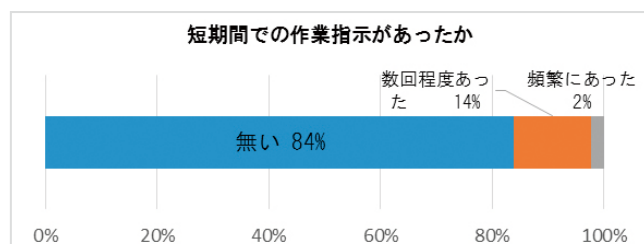
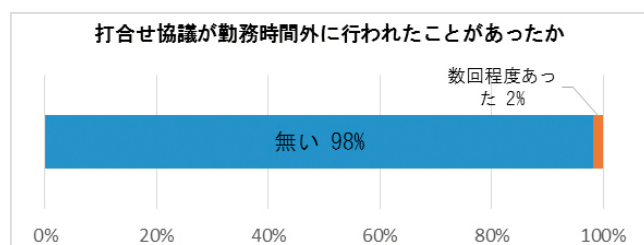
表－1 東北地方整備局および東北6県および仙台市のウィークリースタンス取り組み項目一覧表

		発注者	東北地方 整備局	福島県	秋田県	青森県	岩手県	宮城県	山形県	仙台市
番号	ウィークリースタンス取り組み項目	通達日	H30.4.6 H30.11.28	H30.9.4	H30.9.11	H30.12.5	H30.12.13	H31.3.26	H31.3.28	H31.4.1
1	昼休みや16時以降開始の打合せは行わない。	○				○	○	○	○	○
1-1	(打合せは勤務時間内に行うものとし、)勤務時間外の打合せは行わない。			○	○					
2	休日明け日(月曜日等)は依頼の期限日としない。	○		○	○	○	○	○	○	○
3	休前日(金曜日)は新たな依頼をしない。	○		○	○	○	○	○	○	○
4	作業内容に見合った作業期間確保する。	○					○		○	○
5	ノー残業デーは勤務時間外の依頼はしない。	○					○			○
5-1	ノー残業デーは定時間際や定時後に依頼をしない。								○	
6	ワンデーレスポンスの対応の再徹底。	○		○	○	○	○			
7	受発注者間で業務工程の確認・共有を行い作業工程の把握に努め、必要に応じて見直しを行う。	○					○	○		
8	水曜日(及び金曜日)は定時の帰宅に心がける。	○水金		○水		○水金		○水金		
9	定時間際、定時後の依頼、打合せを行わない。	○				○		○		
10	打合せの開始時に終了時刻を定め、原則その時刻内に完了する。									○
11	早期発注による納期の平準化。			○	○		○			
12	適切な履行期間の確保。			○	○		○			
13	その他、任意に設定する。(例:指示・確認等は出来る限りその日のうちに回答する)									○
14	災害時のやむを得ない緊急事態対応については取り組みの対象外とする場合あり。	○		○	○	○	○	○	○	○

5. ウィークリースタンスの実施状況

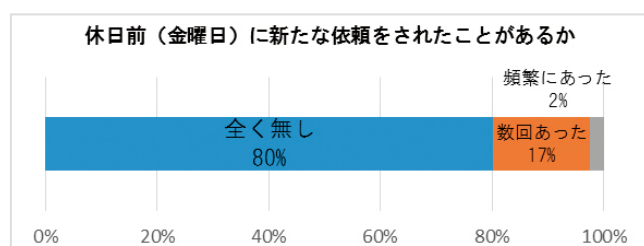
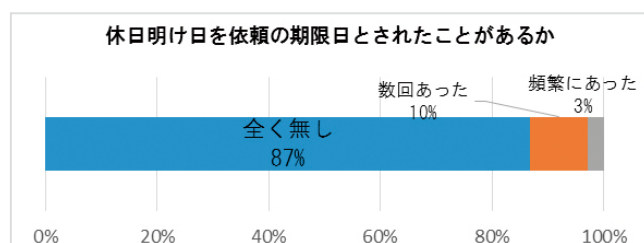
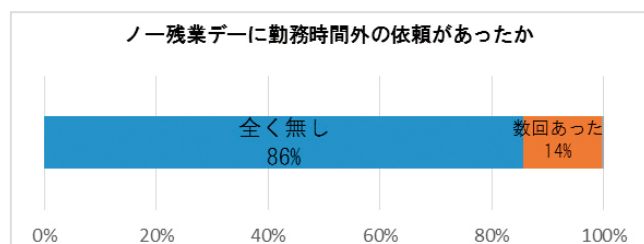
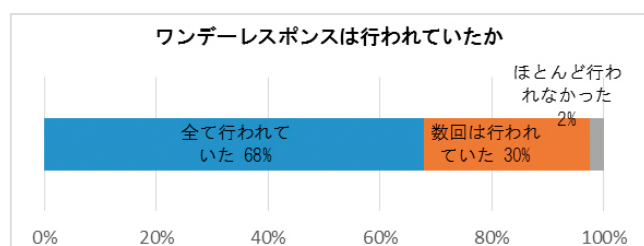
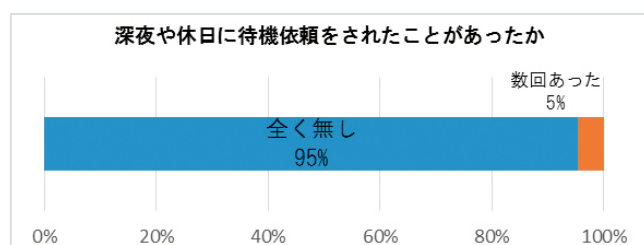
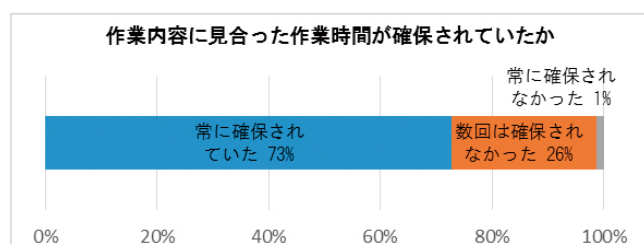
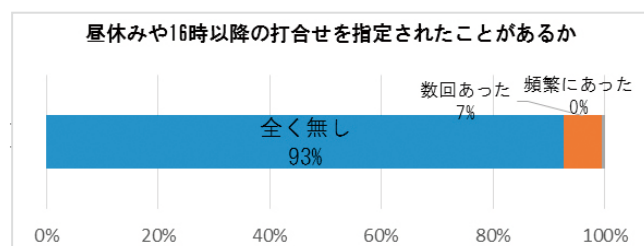
建設コンサルタンツ協会東北支部では、平成30年度と平成31年度における東北地方整備局発注業務において、ウィークリースタンスがどの程度実施されているかアンケート調査を行いました。

ウィークリースタンスアンケート(2018年9月実施)



2018年9月に行ったアンケートでは、勤務時間外の打ち合わせ、短期間での作業指示、深夜や休日の待機依頼は「無い」との回答がそれぞれ98%、84%、95%となりました。また、発注者によるワンデーレスポンスは、「概ね実行されている」を含めると95%が実行されているとの結果です。

ウィークリースタンスアンケート（2019年8月実施）



次に2019年8月に行ったアンケートは、前年から質問項目を変更しており単純比較はできませんが、前年同様、昼休みや16時以降の打合わせ、作業内容に見合った作業時間の確保、深夜や休日の待機依頼といった項目では、ウィークリースタンスの取り組みが高い水準で進められていることが伺えます。また、発注者によるワンデーレスポンスの実行状況では、「全て行われていた」が68%となり、前年アンケート結果の「確実に実行されている」33%と比較すると、状況が好転していることが伺えます。その他、ノー残業デーにおける勤務時間外の依頼、休日明け日を期限とする依頼、休日前の新たな依頼についても、いずれも80%以上の業務で発注者からの配慮がなされているとの結果が得られました。

6. 今後の展望

ウィークリースタンスは、受発注者協働で取り組みを行わなければ効果が現れません。受注者側も業務計画書にウィークリースタンスの取り組みを記載するなど、業務初期の段階において、受発注者でルールとして遵守することを確認することが望ましいと考えます。

長時間労働など仕事の環境が劣悪な組織は敬遠され、有能な人材が集まりにくい状況にあり、担い手にとって魅力ある産業となるよう取り組みが必要です。

自治体発注業務を含めて受発注者間でウィークリースタンスの取り組みをさらに進め、労働環境の改善を図りたいと考えます。

令和元年度 JCCA・WAVE 海外インフラ事情調査 パナマ共和国・アメリカ合衆国 編

株式会社 復建技術コンサルタント 江 口 健二郎

1. はじめに

今回の社会インフラ事情調査は、中南米・北米においてパナマ共和国・アメリカ合衆国の2か国を訪問しました。この企画は、一般社団法人建設コンサルタント協会と一般財団法人みなど総合研究財団が合同で年1回主催しており、今年で11年目となります。

本調査は、国際海運における要衝であるパナマ運河関連施設と、先進超大国の被災復興都市・再開発都市・首都の事情調査を目的に、家田仁団長（政策研究大学院大学教授）に導かれ、総勢22名（参加企業13社）で行いました。

視察形式は、団員の専門性に合わせ参加者を6班に分け、各班で事前調査、移動時に解説、視察実施、事後報告書作成・報告会の形で行われました。

2. 調査工程

- ・調査期間：事前調査 令和元年 4月8日～
実施調査 6月1日～6月11日
事後報告会 9月6日
- ・移動距離：約31,000 km
- ・移動手段：飛行機（8回乗継）、鉄道、バス
- ・スケジュール（主要経由地）

6/1	成田空港 → パナマ移動
6/2	パナマ運河・閘門・博物館視察
6/3	運河鉄道搭乗調査 → ニューオーリンズ移動
6/4	ニューオーリンズ災害復興地区視察
6/5	ニューオーリンズ → ナッシュビル → ノックスビル事情調査
6/6	ノックスビル → ワシントン D.C
6/7	ワシントン D.C インフラ事情調査 → ピッツバーグ
6/8	ピッツバーグ → 市内調査 → ニューヨーク移動
6/9	ニューヨーク事情調査
6/10	ニューヨーク 発
6/11	成田空港 到着 解散

・視察経路図



3. パナマ共和国・運河関連施設の視察

パナマ共和国は、16世紀から植民地化が始まり、20世紀初頭に独立しましたが、運河地帯はアメリカの管理地区となっていました。1999年アメリカ軍が完全撤退したことで、政府は全土に主権を及ぼすようになりました。人口は、約400万人、公用語はスペイン語、通貨は米ドルです。

当地では、2日間で、パナマ運河、博物館、カスコ・ビエホと呼ばれる旧市街地、パナマ運河鉄道、アメリカ橋を視察しました。

パナマ運河は、1914年開通、2016年拡張工事が完了し、運河利用貨物総量のうち2割は日本船籍です。運河建設時の1903年には、青山士氏（後の内務省内務技師 [高等官六等]）が測量員として、その後、閘門工事工区の副技師長として参画するなどの歴史を学びました。

博物館（ビジターセンター）は、太平洋・大西洋両側の閘門部にあり、大陸横断鉄道を利用し、両閘門を視察しました。館内は、運河構造・維持管理関連の展示資料が充実し、一大観光地になっていました。



【ビジターセンター内展望台から】
運河開門を航行する船舶（手前は観光客）

4. アメリカ合衆国

○被災復興都市（ニューオリンズ：ルイジアナ州）

当地は、2005年5月にハリケーン「カトリナ」が直撃し、市人口（約48万人）の8割が脱出し、堤防決壊等で市内8割の面積が水没、死者が約2千人となる災害を経験しました。当視察では、市街地や橋梁などの復旧は確認できましたが、貧困地域では住民が帰還できず、空き地が目立つ場所も確認できました（現在、人口は8万人減少）。



写真は、復旧の取り残された空き地であります。行政に頼らず地元住民で復興を行っている地域もありました。

○再開発都市（ピッツバーグ：ペンシルバニア州）

当地は、19世紀後半からカーネギー鉄鋼会社に代表されるように鉄鋼の町でした。しかし、20世紀後半のオイルショック以降、工業跡地の土壌汚染や鉄鋼業の衰退により、失業者増大、治安悪化、人口流出を経験しています。

そこで市は、中心市街地（ビジネス地区）の活性化から近隣地域の成長を促すよう、町の基幹産業を重工業から医療・金融・先端技術産業に転換し、官民パートナーシップやNPO設立などにより規模が小さく、漸進的で、近隣住民の声を反映した都市再開発スタイルを確立した好事例の都市とされています。しかし、人口減少は進んでおり、取り組みへの賛否は分かれているようです。

現地は、戦前からの重厚な建物や、かつて川辺の工業地帯と丘陵上の住宅地を結んでいた鉄道（モノンガヒラ・インクライン）など歴史的建造物を利用した再

開発を視察しました。ただ、滞在時間が半日だったため橋梁群やカーネギー技術センターなどに行けなかったのは心残りでした。



【インクライン展望台から市街地を撮影】
市街地は三角州に位置し、多くの橋梁が設置されている

○首都（ワシントン D.C.）

ワシントン D.C. は、フランス人技師により設計された公園都市で、道路が碁盤の目のように道が走っています。都市施設であるホワイトハウス、国会議事堂、スミソニアン博物館などは、徒歩圏内にあり主要施設は視察できました。その中で私は、自由行動の時間を利用してペンタゴンまで地下鉄に乗車しましたが、駅構内の広い空間デザインに驚かされました。



5. おわりに

本調査では、施設視察だけでなく、インフラ整備の歴史を学ぶことにより、公共事業の効果や維持管理の手法、失敗例など色々な知識を得ることができました。

当調査団に加えて頂いたことは、事前学習・人的交流・視察・事後整理を通じ、一人の技術者として大変貴重な経験となり、今後さらに土木事業に微力ながら貢献したいと思っています。団長をはじめ、建コン協事務局、財団関係者の方々に感謝申し上げます。

2年間を振り返り

八千代エンジニアリング株式会社 田代太貴

1. はじめに

2017年7月に八千代エンジニアリングに入社し、早くも2年が過ぎました。大学時代は交通計画系の研究室に在籍しており、入社してからは道路設計の業務に携わっています。まだまだ失敗することが多いですが、上司や先輩に助けられながら日々精進しています。

2. 2年間を振り返り

入社してから2年間、技術者として道路の設計、維持管理業務に携わらせていただきましたが、失敗の連続でした。一番印象的な思い出は、設計条件の確認漏れで設計ミスをしてしまったことです。1年目のころは上司や先輩の指示に従って言うことを聞いていれば大丈夫と思ってしまい、自分で考え、確認するという基本的なことからできていませんでした。その結果、設計の最終段階で自分の初歩的なミスが見つかり周りの方々に迷惑をかけたことを今でも昨日のことに覚えています。その体験以降、仕事に対する甘い認識を改め、上司や先輩の指示をただ聞くだけでなく、自分の考えを持ったうえで一つ一つの業務を行うよう意識しています。決していい思い出ではありませんが、失敗した経験で得ること、学ぶことは多かったと思います。

また、社会人になって大きく変わったことは、仕事をこなしていくにつれ、普段の生活から、工事中の現場や見たことのない構造物に目を移す機会が多くなったことです。学生時代は何気なく使っていた道路に対して、どのような工程を得て、どのような構造になっているのかと興味を持つようになりました。道路の設計に携わっていく中で、部分的であれ自分が設計したものが人々の生活の役に立ち、これからも残り続けていくことを考えると地道で細かい作業にもやりがいを感じます。

3. 人との交流

私は、出身が九州ということもあり、入社初日に仙台配属を聞いたときは、正直知り合いが一人もいない

土地に行くことに不安しか感じていませんでした。しかし、実際配属されてみると先輩方は優しく、よく飲みに誘っていただいたり、休日には社員同士で出かけたりイベントに参加するなど、社員間の仲が良かったため、とても働きやすい職場だと感じています。

また、仙台に存在する同業他社の新人同士でも、現場見学等で交流を持つ機会があり、今では良く仕事終わりや休日に飲みに出かけたりしています。新人同士で情報交換をしたり、アドバイスをし合うなどできるためとても刺激になります。



【社員同士でスキーへ】



【仙台のイベントに会社で参加】

4. おわりに

入社してから2年以上がたち、仕事や仙台での生活にも慣れてきました。しかし、この先も1年目2年目で失敗した経験、上司や家族への感謝の気持ちを忘れず、人々の生活のために尽力していきたいと思います。

建設コンサルタントとしての仕事と働きやすさ

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 小 野 ひかり

1. これまでを振り返って

2019年8月。2度目の繁忙期を乗り越え、入社から2年半を迎えようとしています。大学では都市計画・まちづくりを学んできましたが、仕事は交通分野にて主に事故対策業務に携わっております。学生時代に学んだ事とは異なる専門分野で仕事をしており、入社してから新しく勉強しなければならない事も沢山ありました。一通り業務を経験して仕事の中身については分かってきた所ですが、まだまだ知識も経験も浅く、力不足を痛感しております。新しいことに対して怯まず、成長していけたらと思っています。

2. 仕事のやりがい

仕事をしている中で自分が実際に関わった場所を見るときに、奮い立つような気持ちになります。また、計画したものが実際に形になって出てきたときに嬉しさを感じます。私はこの仕事のやりがいを「自分の関わったもの・考えたものが形になること」だと思っています。また、建設コンサルタントに求められるものとして、顧客の望んでいること・本当に必要なことをくみ取って期待以上の形にし、伝えることがあると考えています。今はまだ、ただの自分の意見も上手く伝えることが出来ていない状態です。今後、自分で「必要だと考えたこと」について顧客や上司など相手に伝え、議論し、より良い結果を出して納得してもらうことが出来たら、いっそう大きな達成感とやりがいを感じることが出来ると思っています。

3. 「働きやすさ」について

建設コンサルタント業界において「女性技術者」が特別枠で語られるのはなぜか。ひとつには男性技術者が大半を占めるため女性が仕事し辛いのではないかと、長時間労働も多く、出産や育児といったライフイベントに対応しにくいのではないかとというイメージが強い職場であるためだと言えます。

現在働いている実感としては、仕事上で特別に男性、女性で違う扱いをされている訳でもなく「普通に」働いていると思っています。また、職場の産休・育休等の制度を利用して、実際に出産し育児をしつつ働き続けている先輩もいます。

一方で、ワークライフバランスという点でまだプライベートへの負担が大きい状況が残っていると思います。自分も、長時間労働が続く時期に周りの人に比べて体力が持たず、体調を崩すこともしばしばありました。ただし、これは「女性技術者」の働き方に限定した問題ではないと考えています。労働環境の改善が叫ばれ推進されている今、男性女性の別なく自分の人生に満足できる、プライベートを楽しむ余裕のある働き方が出来るようになれば、働きやすい業界として次代の技術者が多く建設コンサルタント業界に集い、育ってくれるものと思います。



【会社の人達とプライベートで行った山形蔵王温泉スキー場】

技術士合格体験記

株式会社建設技術研究所 高 木 秀 治

1. はじめに

私は、建設部門の「河川、砂防及び海岸・海洋」を受験しました。一次試験は平成16年度に合格していたものの、二次試験にはなかなか合格できず、十何度目かの試験で合格できました。ここでは、合格に至った転機について私の体験を紹介させていただきます。

2. 筆記試験

筆記試験の「文章の書き方」を変えたことが合格に至った大きな要因と考えます。これまでは、業務報告書のように、背景と課題、適用する解析手法、検討条件、結果・結論のような流れで記述していましたが、次の2つを意識して文章の書き方を修正しました。

1つは学术论文の記載構成を意識して、筆記論文の構成を見直したことが挙げられます。これまで、学術誌等の購読をしてきましたが実際に論文を執筆する機会があり、この経験が技術士筆記試験に役立ちました。また、論文で使われている文章表現を使用することで、全体的に読みやすい文章にすることができたと感じます。

もう1つはあいまいな表現や記述をできるかぎりなくしたことが挙げられます。筆記試験での時間的制約、紙面上の制約がありますが、技術的な提案部分に多くの時間と紙面を割き、提案を裏付ける具体的な内容を明確に記述することを強く意識しました。このような記述方法は、プロポーサル等の技術提案を通じて培うことができたものと考えます。

3. 口頭試験

私の口頭試験は、筆記試験の合格発表から約2ヶ月後で、この間に2度の模擬面接を行い、口答試験に備えました。

普段の業務打合せによりコミュニケーションには自信がありましたが、模擬面接により回答の仕方や自分では認識していなかった癖を再確認できたことが、口答試験当日に役立ちました。特に私の場合は質問に対する回答が長くなる癖があったため、問いに対する回答を簡潔に答えたうえで、その理由を述べるよう心がけました。また、面接時の体の動きの癖やジェスチャーの仕方も再度確認しておくことが必要と感じました。

4. おわりに

二次試験受験にあたり、これまで大変多くの方のご指導を頂きました。今後私が技術士として技術と人格を磨きこれを発揮し、広く社会貢献していくことで少しでも恩をお返ししていけたらと思います。

この場を借りて、ご指導して下さいました上司、模擬面接をして下さいました建設コンサルタント協会の皆様に心より感謝申し上げます。

私の趣味 ～モバイルヲタクの独り言～

株式会社田村測量設計事務所 代表取締役 田村 道雄

はじめに

「私の趣味」というお題で原稿をという依頼を受け、ハタと困った。マラソンが趣味という程最近走っていないし、そもそもここ数年大会にも出ていない。なんとか10km くらいを週に最低限2回程度は死守しており、始めた頃の目標が還暦のフルマラソンランナーだからランニングは続けているのだが、趣味かと言われると健康管理という節もあり、正面切って趣味というのも語弊がある気がする。ソフトテニスやバドミントンも相手がいなくなって数年立ちここ2年くらいはラケットも握っていないから、趣味というのも無理がある。なんだかえらく無趣味な人間のような気がしてきたが、ずっと興味があって続けていることにモバイルヲタク的なことがあり、広い意味ではこれも趣味のうちとこじつけて、その分野の今昔について書いてみようと思う。

HP200LX という機械

Wikipedia には「HP200LX は、ヒューレット・パッカカード (HP) が1994年11月に発売した、PC/XT 互換アーキテクチャの携帯型パーソナルコンピュータである。」と出ています。思えばこの PC がモバイルラ



タクの始まりでした。一言で言えば単 3 乾電池 2 本で動く MSDOS パソコンで、今は無き Lotus123 がバンドルされており、日本語化すればテキストエディタを駆使してメールを送受信したりすることも出来ました。PCMCIA スロットも持っており、そこにフラッ



シュメモリとモデムが一体化されたカードを刺し、PHS をケーブルで接続してインターネット通信して、ストレージはフラッシュメモリという使い方が出来ました。ただし当時の通信網ではスピードも遅く、駅にいる間にメールの送受信を試みるも受信完了する前に発車してしまい通信に失敗するという笑い話のようなこともよくありました。

HP200LX は一部の好きものの間では静かに浸透してきた機種でしたが、その後、この方向性で特化した機種はリリースされたことはありませんでした。汎用性を求められる PC としての宿命なのか、割り切ったスペックの特化したものは一部ではウケるものの大量生産には向かなかったのかもしれませんが。

Raspberry PI というブーム

モバイル PC ではないですが、ここ数年 Raspberry PI という PC がブームになっています。2013年に初代の機器がリリースされたいわゆるシングルボードコンピュータなのですが、当時の基板サイズが85.6 mm × 56.5 mm という名刺サイズ程度の中にイーサネットコネクタと USB、HDMI と外部入出力用のポートが装備された小さな PC と言えるものでした。



OS (Operation System) もインターネットサイトからダウンロードしたものを Micro SD カードに書き込み、SD カードスロットに差し込み電源を入れれば様々な OS (パッケージ) で起動させることが可能です。様々な OS が動くように試してくれている方が世の中には沢山いるため、Android が動いたり、最近では Windows10 が動いているとの報告もありました(試していませんが)。

CPU 等のスペックもモデルが新しくなる度にパワーアップされています。最新の Raspberry PI4 ModelB では ARM Cortex-A72 クアッドコア 1.5GHz まで強化されており、メモリも 256Mbyte から 4GByte、インターフェースも USB3.0 が搭載され、HDMI が 2 本(デュアルディスプレイが可?) となるなど、普通の PC として使えるレベルになってきています。大体どの程度のスループットかというと現時点の Raspberry PI3 で youtube が視聴可能という程度です。最新の Raspberry PI4 ならかなり快適に見られるくらいの性能なのではないかと想像しますが、2019 年 9 月 15 日現在で WiFi 等の技適認証の問題もあり日本国内では正式入手は未だ出来ないようです。

価格的にも最新の Raspberry PI4 の 4GB モデルが \$55 程度で、一番安価な Raspberry PI Zero では \$5 となっています。国内で購入しようとするこの価格よりは高くなるケースが多いですが、それこそアマゾンポチで翌日に届く程度の気軽さで入手可能なものになっています。

それでこれを何に使おうかということになるのですが、基本的に汎用コンピュータなので何でも使えるということではあります。汎用入出力を持ちインターネットに繋がるコンピュータで安価なために、それ専用のみに使っていいということで、センサーで温度を計って決められたサイトに書き込むとか、安価なカメラを繋いで外から見られる Web カメラにするとか、思いついた数だけ用途はあるということになります。

誰でもヲタク時代

最近のこういった情報に接する度に、初めに書いた HP200LX の時代からすれば隔世の感があるという感じがします(まあ、そもそも 30 年以上経ってはいるのですが)。誰でも安価に様々なハードウェアが購入出来、誰でもそれを使うための情報に触れることが出来る、良い時代になったもんだなあと本当に思います。電子工作関係の雑誌を見ると GNSS の 2 周波の受信機が数万円程度で入手出来、RTK 測位まで可能になっています。試しに購入し試してみたら、ほんとにすぐ出来てしまいあまりの手軽さに驚いた次第です。勿論それは先人の方々の苦勞の上に成り立っているのは言うまでもないことではあるのですが、様々なことを実現しようとした場合のハードルが下がっているのは事実です。IoT の時代には what よりも how の方が大事だと言われたことがあります、誰でもヲタク、IoT ヲタクにでもなれる時代です。これからもワクワクしながら色んな情報に触れ色んなことを試していきたいと考えているヲタクの独り言でした。

構造専門委員会・道路専門委員会合同現場見学会に参加して

大日本コンサルタント株式会社 金子昇平

1. はじめに

平成30年10月24日（水）、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加させて頂いた。

場所は福島県伊達市。現在施工中の復興支援道路「相馬福島道路」における、①深礎杭施工現場、②切土法面施工現場（ICT建設機械活用）、③橋脚施工現場の3ヶ所を見学する行程であった。

2. 東根川橋下部工工事

直径10.5mにおよぶ深礎杭の施工現場である。

橋梁一般図でしか知らなかった構造物を間近に見学でき、良い体験となった。実物のスケール感や地道な施工方法もさることながら、約20mの高低差がある中で行われる施工を目の当たりにし、施工日数を積み上げて算定される「施工性」という言葉以上の配慮が設計の段階で必要なのだと実感した。



写真1 東根川橋下部工工事 深礎杭施工
※施工速度：足場1段分（H=1.5～1.8m）/日

3. 小平山地区道路改良工事

掛田橋 A2橋台から掛田トンネル間の切土区間の施工現場である。

本施工箇所では、ICT建設機械による施工方法和施工管理方法について、デモンストレーションを交えてレクチャー頂いた。

設計段階における CIM/BIM については知っていたが、実際に建設 ICT が施工現場で運用されている光景は初めての経験であった。

このような ICT 技術により、丁張等の準備工手間や施工ミスの削減が見込める。事業全体の効率化と仕事環境の改善も見込めることだろう。

建設 ICT 技術が、施工～維持管理段階でスムーズに活用されるためには、その上流側となる調査～設計段階での確実なデータ構築が必要となる。設計者に対して、CIM / BIM に代表される新しいスキルが求められていることを再認識した見学であった。



写真2 小平山地区道路改良工事 ICT建設機械デモ

4. 桑折高架橋橋本地区下部工工事

桑折高架橋橋本地区下部工工事では、橋脚施工現場を見学した。施工箇所は建造物が隣接しており、土留め鋼矢板について工夫が必要だった箇所である。

また、橋脚高さに応じたコンクリート打設計画について説明を受けた。普段、橋脚やその他大規模コンクリート構造物の設計に触れる機会が無いが、施工方法を工夫し、工期短縮が図られている状況を知ることが出来、勉強になった。



写真3 橋脚施工（桑折高架橋橋本地区下部工工事）

5. おわりに

建設事業の一連のサイクルの中で「調査・設計・維持管理」を担う我々建設コンサルタントにとって、「施工」を知る機会は少ないが、同時に「施工」を知らなければ満足な調査・設計・維持管理は出来ない。

例えば、自分が描いている図面の施工余裕は適正なのか。現道は本当に搬入路として使用可能なのか。

あるいは、積算資料上でしか知らなかった建設機械の規模を知ること、配筋図でしか見たことがなかった鉄筋の実際の配筋方法を知することは非常に重要である。

ICT建設機械活用のように、施工方法や施工現場の状況は年々変化していくことだろう。今後も継続して現場見学会に参加する必要があると実感した。

また、前述のとおり「施工」を知る機会は大変貴重である。自分も含めた若手設計者の“必修科目”であると感じた。

最後に、現場で説明して下さった施工業者の方々、現場見学会を企画していただいた建設コンサルタント協会東北支部の皆様に厚くお礼申し上げます。



写真4 橋本地区下部工工事現場で集合写真

構造・道路専門委員会合同現場見学会に参加して

パシフィックコンサルタンツ株式会社 石 村 友里絵

1. はじめに

平成30年10月24日（水）、建設コンサルタンツ協会東北支部 構造・道路専門委員会主催の現場見学会に参加した。現場は、復興支援道路として福島都市圏と沿岸部を結ぶ高速ネットワーク整備の糧となる東北中央自動車道「一般国道115号」、相馬福島道路のうち、福島県伊達市「小平山地区道路改良工事」、福島県伊達市「掛田橋下部工工事」、福島県伊達市「東根橋下部工工事」の4箇所であり、仙台駅からバスで移動し半日で各現場を見学した。

私は、道路計画・設計を行う部署に所属しており、担当技術者として日々業務に従事している。ただし、実際の施工中の現場を訪れる機会は少ないため、今回の現場見学会を通して、現場のスケール感や工事の進め方、設計段階から気をつけるべきことなどを勉強したいと思い、参加することとした。

2. 見学会の感想「小平山地区道路改良工事」

今回現場を訪れた中で、最も印象に残っているのは、「小平山地区道路改良工事」である。この現場ではICT施工を行っており、3次元設計成果がどのように施工されるのか、現地で実際の機械を見て、確認できたことはとても良い勉強となったからである。

現場では、自動制御で動くバックホウが掘削作業中であった。バックホウは、GPSにより機械の位置情報を認識し3次元設計データを照らし合わせて、目標設計面に到達した段階で自動的に掘削作業を止めるようになっている。（図-1）どの程度の位置まで掘削できているかを、PCのモニターから確認できるようになっていた。（図-2）このような機械を導入することで、従来の土工工事で行われていた丁張りや施工時の測量等の作業が削減され、費用と工期を大幅に削減できていることが分かった。また、作業員の方も違和感なく工事を進めていたため、ICT施工が普及していることを感じる事ができた。



図-1 自動で施工面を認識するバックホウ



図-2 PCを用いて確認する様子

3. おわりに

現場見学会を通して、実際の現場のスケールを感じることができた。現場には、トラックの車輪を洗う場所など設計時には考えないようなスペースもあった。今回の現場見学を、今後の業務に活かしていきたいと考えている。最後に、現場で説明して下さった施工業者の方々、現場見学会を企画していただいた建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様に厚くお礼申し上げます。

河川・環境専門委員会合同現場見学会に参加して

セントラルコンサルタント株式会社 中 山 一 紀

1. はじめに

私は、平成30年10月12日（金）に開催された（一社）建設コンサルタンツ協会主催の河川・環境現場見学会に参加させていただきました。今回は、一関遊水地周辺の以下3箇所について見学しました。

- ①砂鉄川護岸（砂鉄川）
- ②一関遊水地（舞川水門、大林水門）
- ③磐井川桜堤（磐井川）

2. 現場見学会の感想

①砂鉄川護岸

見学箇所は、蛇行する砂鉄川をショートカットして作られた区間にあたり、自然区間に比べ魚の生息密度が低かったといえます。そこで環境復元が行われ、どのような工法が検討されたのか説明を頂きました。

見学の際、堤防から高水敷へ降り、まず目に入ったのは多数打ち込まれた木杭です。水際部では流水部に比べ、多くの魚が生息していると説明を頂き、木杭によって流速を弱め、生物の住みやすい環境を創る目的があると知りました。この木杭は、河川伝統工法を参考にしたと聞き、現代にも生かされる伝統工法に感銘を受けました。

施工後の調査によって、環境復元を行ったところでは、魚類が多く捕獲されたことも確認されたと聞きました。河川には生物がいて、生物にとって住みよい環境とはなにか。また、河川改修と生物の生息環境の両立について考える機会となりました。



写真：砂鉄川の木杭

②一関遊水地

一関遊水地では、あいぽーと→一関遊水地展望台→舞川水門、第3遊水地越流堤・小堤→大林水門の順に見学しました。あいぽーとでは、一関遊水地が見渡せ、一関

遊水地の歴史や治水の重要性を学ぶことができました。

舞川水門では建設中の水門を見学することができ、スケールの大きさを実感しました。また、隣接して第3遊水地越流堤があり、間近で越流堤をみることは初めての機会でもあったため、越流堤の構造について理解を深めることが出来ました。



写真：第3遊水地越流堤（左）大林水門（右）

大林水門では、今年3月に完成したゲートを見学しました。大林水門を含め、一関遊水地にある3つの水門では、景観に配慮して門柱のない横転式ローラーゲートが採用されています。この横転式ローラーゲートは初めてみるゲート形式であり、今後の業務の参考にしていきたいです。

③磐井川桜堤

一関市中心部を流れる磐井川に植えられた桜並木の再生計画について説明を頂きました。一関遊水地が計画される契機となった、カスリン台風の被害からの早期復興を祈念して植樹された桜であり、堤防改修後も桜が植樹されると聞きました。一関の街が遊水地によって守られ、堤防沿いは憩いの場となっていることに改めて河川の存在の大きさを実感しました。

3. おわりに

今回の現場見学会では、砂鉄川における環境復元の工法と施工についてと、一関遊水地の歴史や施設について学ぶことができ、今後の業務にも生かしていきたいと思います。見学会後の交流会では同年代の技術者と交流することができ、有意義な時間となりました。

最後になりますが、主催していただいた建設コンサルタンツ協会の皆様及び国土交通省東北地方整備局の皆様にご挨拶申し上げます。参加させて頂きありがとうございました。

河川・環境専門委員会合同現場見学会に参加して

八千代エンジニアリング株式会社 下 鳥 一 樹

1. はじめに

2018年10月12日に開催された（一社）建設コンサルタンツ協会 東北支部開催の河川・現場見学会に参加させていただきました。今回は、岩手県の一関遊水地周辺の以下3箇所を見学しました。

- ①砂鉄川護岸（砂鉄川）
- ②一関遊水地（舞川水門、大林水門）
- ③磐井川桜堤（磐井川）

2. 見学会の感想

①砂鉄川護岸

砂鉄川では、自然環境復元を目的とした護岸の現状を見学させていただきました。治水事業によって護岸部の植生や魚類が減少した区間に対して、水際環境の再生を目的とし、どのような工法が検討されたのかを説明いただきました。実際に砂鉄川で採用された木杭工法（写真1参照）では、魚類の遊泳に適した流速が形成されるように木杭の配列まで考慮していることに驚きを感じました。また魚類が好む生息環境である植生による遮断環境の再現など、河道全体で環境に配慮して事業が行われていることが印象的で、河川における環境配慮の重要性などを考える機会となりました。



写真1：砂鉄川の木杭と植生状況

②一関遊水地

一関遊水地では、あいぽーと→舞川水門→第3遊水地越流堤・小堤→大林水門の順に見学を行いました。あいぽーとでは展望台から一関遊水地を見渡ししながら、遊水地が計画された背景や歴史、またその機能について学ぶと同時に一関における遊水地の重要性を理解しました。舞川水門では建設中の水門を間近で見学することができ、また建設方法などの説明を聞き、貴重な経験とすることができました。第3遊水地越流堤・小堤では、計画の検討経緯の変化に応じて、それぞれの工法のメリットや構造などについて理解を深めるこ

とことができました。大林水門（写真2参照）では、門柱のない横転式ローラージェートを初めて見学し、そのスケールの大きさと形式に驚きを感じました。また同時に一関遊水地計画の事業の規模の大きさを感ずることができました。



写真2：大林水門

③磐井川桜堤

堤防に植樹されている桜が水害復興の証であることや、その場所が市民の憩いの場となっているという説明をいただきました。河川における治水と親水性について考える機会となりました。

3. おわりに

河川・環境現場見学会ということで治水のみならず環境に配慮した事業に関しても学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。見学会後の懇親会では様々な方々と交流でき、有意義な時間を過ごせました。

最後に見学会を主催して頂いた建設コンサルタンツ協会、国土交通省の皆様にご挨拶申し上げます。誠にありがとうございました。

地盤・防災専門委員会合同現場見学会に参加して

日本工営株式会社 尾崎 裕司

1. 開催日時

平成30年10月23日（火） 9:00～18:00

2. 見学場所

福島県いわき市川前町～田村市滝根町広瀬 地内
県道吉間田滝根線 広瀬1号トンネル工事
(施工会社：前田建設工業(株))

3. 参加者

建設コンサルタント協会 東北支部協会員 17名

4. 現場見学の概要

(1) 工事の概要

広瀬1号トンネルは「ふくしま復興再生道路広瀬改良（県道吉間田滝根線）」の一部である。広瀬改良は、県道吉間田滝根線の特殊通行規制区間や防災危険箇所、未改良区間の回避により、住民生活等における定時性や速達性の確保を目的とする防災事業だが、改築規模が大きく、トンネルや長大橋の施工を要し高度な専門技術を必要とすることから、国による代行事業として整備が行われているものである。



見学箇所位置図（国土交通省 郡山国道事務所HPより）

(2) 見学の内容

見学会では、坑内立入りの前に国土交通省郡山国道事務所安積出張所長様および前田建設工業(株)の現場事務所長様から事業と工事の概要説明を受け、その後、施工中の広瀬1号トンネルの中を切羽まで徒歩で見学した。

広瀬1号トンネルは延長1,403mの山岳トンネルであり、地山の地質は中生代の花崗閃緑岩からなる。支保工は設計ではB、CⅠ、CⅡを主体としているが、現場ではCⅠ以下が主体となっていた。

見学日における掘削延長は約600mであり、坑内では覆工工事や型枠工、建設機材の説明を受け、切羽の施工状況を見学した。



坑口付近で概要説明を受ける



切羽見学の状況

工事は専用のPCでデータ管理されており、情報化施工がなされていた。また非常時用装備の入った避難袋の設置や電源喪失時の代替機能を想定した複数通信設備の配置等、万全の安全対策が行われていた。

坑外に退出した後、サイレンで警告の後に発破実施があり、見学会は終了した。

以上。

自然との共生を目指して

株式会社エース 東京支社長 藤 田 伸 二

弊社は、昭和40年に松川設計事務所として設立され、その後、エシイコンサルタント、エーシーイー、エースと名を改め、本年1月に創立54年を迎えることができました。

創立以来、関係各位のご支援をいただき、現在では京都に本社を置きながら東京・大阪・福岡の支社と、仙台をはじめとする約20の営業所を持つ総合コンサルタントとして、幅広い分野で社会資本の一翼を担う会社に育ってまいりました。この間、ご支援ご協力を賜った皆様に心より厚くお礼申し上げます。

ごく大まかに弊社の生い立ちを振り返ってみたいと思います。

アジアで初のオリンピックが東京で開催され、東海道新幹線が開通し、首都高速が建設されたのは昭和39年でありました。その翌年の昭和40年1月に松川設計事務所が京都に産声をあげました。総勢7名でのスタートでした。京都では比較的早い時期の建設コンサルタントの誕生でした。

昭和41年12月には法人化して社名を(株)エシイコンサルタントとしました。業務は下水道の設計を主体として始め、上水道・団地の設計や道路の設計に広がっていきました。資本金の増資、金沢や大阪出張所の設置も行いました。業務拡大にあわせ昭和46年12月に本社を移転するとともに社名を(株)エーシーイーコンサルタントと変えました。

順調に見えた業務も昭和48年の石油ショックと、50年の原油価格の高騰による不況のあおりを受け、民間からの受注が減少して営業所の閉鎖や社員の削減など苦しい時代を迎えました。

昭和50年頃に民間から官公庁受注に主力を移し、安定的な企業経営を目指すことになりました。業務は昭和51年を底に52年から増加に転じ、54年になって5年前の水準にもどすことができました。

その後業務を広げながら昭和60年に創立20周年

を迎えて、社名を(株)エーシーイーと変更、総合コンサルタントとしての体制が整って参りました。

世は平成となり、弊社も社員が100名を超え支社年や営業所の数も増え、平成6年に30周年を迎えました。社名を(株)エースと変えるとともに上海に中国企業との合弁会社を設立し、台湾での橋梁設計にも参画いたしました。

平成7年には東京営業所を東京支社にして関東・東北方面の拠点といたしました。

社業は順調に推移していましたが、平成13年の小泉内閣発足とともに構造改革が叫ばれ公共事業の減少が影響、しばらく社業も停滞いたしました。しかしこの間も社員の努力によって何とか大幅な受注減を見ることなく社業を維持することができました。

平成23年の東日本大震災を契機として国土保全や社会資本の重要性が再認識され公共事業の減少が止まりました。弊社の業務も持ち直し、橋梁点検などを中心に一定の受注を確保しながら鉄道などの新しい分野への挑戦を進めております。

平成25年には念願であった仙台営業所を開設でき、まだ小規模ですが宮城県下で受注できるようになってまいりました。新参者ではありますが、東北のためにお役に立てるよう社員一同努力してまいりますのでなにとぞよろしくお願い申し上げます。

最後に弊社の30年史から「自然との共生」についてご紹介いたします。

【気がつけば、世界有数の豊かな国といわれるようになっていました。

人間社会の繁栄を求めて発展してきた技術が、自然に挑戦していることに気づき、自然の恵みを求め、自然との共生を模索しはじめました。

株式会社エースは、これからも、自然との共生を追求してまいります。】



株式会社エース
 本社 〒600-8138 京都市下京区七条通木屋町上る大宮町205
 仙台営業所 〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208
 支社支店 東京支社、大阪支社、九州支社

RCCM 資格試験

シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書（旧建設省）において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し27年になります。平成7年度に建設省は標準契約約款の制定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又はRCCM資格保有者と規定されました。

平成30年度のRCCM資格試験は平成30年11月11日仙台会場（東北工業大学）で実施され、479名が受験され、195名が合格しました。

なお、平成31年度のRCCM資格試験は、平成31年11月10日の予定です。

平成 30 年度受験地別・部門別合格状況

試験日 平成30年11月11日

合格発表 平成31年3月1日

部 門 受験地	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			広 島			高 松			合 計		
	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
1. 河川、砂防及び海岸	130	62	47.7	107	47	43.9	177	55	31.1	9	4	44.4	52	23	44.2	74	32	43.2	72	37	51.4	53	20	37.7	62	36	58.1	736	316	42.9
2. 港湾及び空港	22	13	59.1	11	6	54.5	42	17	40.5	6	0	0.0	3	0	0.0	4	1	25.0	1	0	0.0	8	5	62.5	5	2	40.0	102	44	43.1
3. 電力土木	7	5	71.4	4	2	50.0	2	1	50.0	0	0	0.0	1	1	100.0	1	0	0.0	5	3	60.0	2	1	50.0	3	2	66.7	25	15	60.0
4. 道 路	242	87	36.0	124	31	25.0	184	55	29.9	33	10	30.3	65	23	35.4	112	32	28.6	117	39	33.3	31	13	41.9	61	12	19.7	969	302	31.2
5. 鉄 道	9	6	66.7	8	4	50.0	8	6	75.0	0	0	0.0	0	0	0.0	4	3	75.0	0	0	0.0	0	0	0.0	1	1	100.0	30	20	66.7
6. 上水道及び工業用水道	42	15	35.7	40	15	37.5	33	9	27.3	25	1	4.0	6	3	50.0	26	12	46.2	15	7	46.7	8	3	37.5	11	3	27.3	206	68	33.0
7. 下水道	67	25	37.3	41	16	39.0	29	10	34.5	13	5	38.5	1	0	0.0	23	11	47.8	19	7	36.8	11	6	54.5	13	7	53.8	217	87	40.1
8. 農業土木	17	8	47.1	13	6	46.2	80	31	38.8	13	5	38.5	17	4	23.5	20	7	35.0	25	10	40.0	15	9	60.0	17	8	47.1	217	88	40.6
9. 森林土木	6	2	33.3	4	1	25.0	21	8	38.1	0	0	0.0	3	0	0.0	12	7	58.3	7	1	14.3	7	5	71.4	1	1	100.0	61	25	41.0
10. 造 園	24	14	58.3	10	3	30.0	7	6	85.7	3	1	33.3	2	0	0.0	8	3	37.5	4	1	25.0	1	0	0.0	3	2	66.7	62	30	48.4
11. 都市計画及び地方計画	71	38	53.5	38	12	31.6	37	15	40.5	10	1	10.0	10	3	30.0	32	19	59.4	28	14	50.0	4	1	25.0	5	1	20.0	235	104	44.3
12. 地 質	22	7	31.8	11	1	9.1	22	7	31.8	0	0	0.0	8	4	50.0	10	4	40.0	8	4	50.0	7	2	28.6	10	5	50.0	98	34	34.7
13. 土質及び基礎	65	26	40.0	57	14	24.6	104	33	31.7	25	10	40.0	24	10	41.7	45	23	51.1	42	17	40.5	34	14	41.2	34	18	52.9	430	165	38.4
14. 鋼構造及びコンクリート	178	65	36.5	111	38	34.2	139	53	38.1	10	2	20.0	55	16	29.1	91	42	46.2	75	31	41.3	47	13	27.7	60	22	36.7	766	282	36.8
15. トンネル	23	15	65.2	13	8	61.5	33	20	60.6	0	0	0.0	7	3	42.9	8	4	50.0	5	4	80.0	13	6	46.2	10	7	70.0	112	67	59.8
16. 施工計画、施工設備及び積算	69	12	17.4	41	9	22.0	32	8	25.0	16	5	31.3	10	5	50.0	23	9	39.1	31	11	35.5	8	5	62.5	12	3	25.0	242	67	27.7
17. 建設環境	30	16	53.3	32	14	43.8	24	6	25.0	8	3	37.5	20	9	45.0	9	3	33.3	9	3	33.3	9	3	33.3	5	3	60.0	146	60	41.1
18. 機 械	6	3	50.0	8	5	62.5	1	0	0.0	0	0	0.0	1	1	100.0	0	0	0.0	1	1	100.0	0	0	0.0	1	1	100.0	18	11	61.1
19. 水産土木	9	3	33.3	3	3	100.0	6	2	33.3	2	1	50.0	4	2	50.0	2	0	0.0	7	3	42.9	1	1	100.0	1	0	0.0	35	15	42.9
20. 電気・電子	57	21	36.8	22	12	54.5	9	3	33.3	4	0	0.0	8	3	37.5	11	3	27.3	5	1	20.0	12	2	16.7	2	1	50.0	130	46	35.4
21. 廃棄物	3	0	0.0	3	2	66.7	0	0	0.0	1	1	100.0	1	1	100.0	3	0	0.0	0	0	0.0	1	1	100.0	0	0	0.0	12	5	41.7
22. 建設情報	25	7	28.0	7	5	71.4	5	1	20.0	0	0	0.0	3	2	66.7	10	3	30.0	3	1	33.3	2	1	50.0	1	0	0.0	56	20	35.7
合 計	1,124	450	40.0	708	254	35.9	995	346	34.8	178	49	27.5	301	113	37.5	528	218	41.3	479	195	40.7	274	111	40.5	318	135	42.5	4,905	1,871	38.1

平成30年度 RCCM 登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録の有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録の更新を受けようとする者は、更新の日から1年間に行われた登録更新講習会を受けなければならないことになっている。

平成30年度の登録更新講習会は、平成14、18、22、26年度の「RCCM資格試験」の合格者を主な対象者として、仙台会場（メトロポリタンホテル仙台）では、平成30年10月4日午前・午後に分かれて実施され、328名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

午前の部

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 挨拶・講話 | (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 永 治 泰 司 |
| 2. 技術課題と最近の動向 | 政策研究大学院大学 政策研究センター 所長 森 地 茂 |
| 3. 建設コンサルタントの現状と課題 | 高知工科大学 名誉教授 草 柳 俊 二 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 | |

午後の部

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 挨拶・講話 | (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 永 治 泰 司 |
| 2. 技術課題と最近の動向 | 政策研究大学院大学 政策研究センター 所長 森 地 茂 |
| 3. 建設コンサルタントの現状と課題 | 高知工科大学 名誉教授 草 柳 俊 二 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 | |

平成30年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会 場 名		申 込 者 数	受 講 者 数	受 講 率	実施月日	
札 幌		午前	147	146	99.3%	10月 2 日
		午後	197	197	100.0%	
仙 台		午前	153	153	100.0%	10月 4 日
		午後	175	175	100.0%	
東京	第一	午前	219	219	100.0%	9 月29日
		午後	219	219	100.0%	
	第二	午前	128	128	100.0%	10月29日
		午後	174	173	99.4%	
	第三	午後	129	128	99.2%	12月 7 日
	新 潟		午後	96	96	100.0%
名 古 屋		午前	189	189	100.0%	10月26日
		午後	179	179	100.0%	
大阪	第一	午前	163	162	99.4%	9 月28日
		午後	218	218	100.0%	
	第二	午前	99	99	100.0%	10月16日
		午後	212	212	100.0%	10月31日
高 松		午前	106	106	100.0%	11月27日
午後	93	93	100.0%			
福岡	第一	午前	207	207	100.0%	10月11日
		午後	208	208	100.0%	
	第二	午後	116	115	99.1%	11月29日
沖 縄		午後	102	100	98.0%	12月 4 日
合 計		3,529	3,522	99.8%		

平成30年度 意見交換会について

建設コンサルタンツ協会の重要事業としております、発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の「要望と提案事項に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、幹事会に諮り議題を決め、平成30年9月7日の岩手県県土整備部を始めに11月27日の福島県土木部で終了しました。

岩手県県土整備部との意見交換会

日 時 平成30年9月7日

出席者 (県) 中平 河川港湾担当技監 他 6名

(協会) 菅原支部長他幹事・会員 15名



中平 河川港湾担当技監のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

秋田県建設部との意見交換会

日 時 平成30年10月10日

出席者 (県) 佐藤 建設技監他 6名

(協会) 菅原支部長他幹事・会員 20名



意見交換会風景 (佐藤建設技監のご挨拶)

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

宮城県土木部との意見交換会 (3団体合同)

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社) 宮城県測量設計業協会

(一社) 全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

日 時 平成30年10月22日

出席者 (県) 櫻井 土木部長他 6名

(協会) 菅原支部長他 3団体 41名



意見交換会風景 (櫻井土木部長のご挨拶)

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力重視による選定と入札制度に関する要望と提案
3. 品質の確保・向上
4. 各協会からの要望と提案

山形県県土整備部との意見交換会

日 時 平成30年10月24日

出席者 (県) 角湯 県土整備部長他 9名

(協会) 菅原支部長他幹事・会員 23名



角湯 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

東北地方整備局との意見交換会

日 時 平成30年10月30日

出席者 (整備局) 西尾 企画部長他 8名
(協会) 菅原支部長他幹事 18名



西尾 企画部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備 (受発注者共同による就業環境改善に向けての取り組み) について
2. 技術力による選定について
3. i - Construction の取り組みについて

青森県県土整備部との意見交換会

日 時 平成30年11月5日

出席者 (県) 福士 県土整備部長他 10名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 18名



福士 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

仙台市との意見交換会

日 時 平成30年11月8日

出席者 (仙台市) 小野 都市整備局長他 6名
(協会) 菅原支部長他幹事 21名



小野 都市整備局長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

福島県土木部との意見交換会

日 時 平成30年11月27日

出席者 (県) 鈴木 土木部技監 他 7名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 23名



鈴木 土木部技監のご挨拶

議 題 (協会)

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他 (自由討議)

令和元年度支部定時総会

4月23日（火）14：30からパレス宮城野において会員103社中74社が出席し、平成31年度支部定時総会が開催されました。



定時総会会場

冒頭、菅原支部長から挨拶がありました。

議事は、菅原支部長議長のもと、次の方々の議事録署名人を選出し議事に入った。

齋藤 喜一 支社長（㈱エイト日本技術開発

東北支社）

高橋 裕明 支社長（国土防災技術㈱ 東北支社）

続いて、議案の審議が次のとおり進められました。

(1) 平成30年度事業報告について

事務局長から一般報告として、会員数・内訳、事業報告として、各委員会の委員長から報告がありました。

(2) 令和元年度事業計画

菅原支部長から令和元年度の事業の基本方針として、

①東北地方の社会資本整備の担い手として、東日本大震災からの復興を支援すると共に、住民に豊かな生活、地域の安全・安心が保てる社会資本整備の必要性を訴えていく活動を継続する。

②魅力ある建設コンサルタントとするため、受発注者共同による健全な労働環境の改善による働き方改革を実現し、担い手が集う環境の整備を進める。

③災害協定に基づく連携を強化するため、協定内容の見直しや訓練等を継続的に実施する。

④プロポーザル方式及び総合評価落札方式において、技術力を重視した方式や地域企業の参加可能な方式などを具体的に提案することにより、入札契約制度の改善を推進する。

⑤価格競争方式においては、地方自治体における低価格調査制度と失格基準の改善などを提案することにより、適正な競争制度の確立に寄与する。

⑥会員企業が優良な技術と知恵を持続的に提供し続けるために、技術者育成と更なる技術力向上に取り組む。

⑦建設コンサルタント事業領域拡大のため、発注者支援業務への積極的な取り組みと、PPP/PFIやCMなどの新たな業務領域を提案する。また、コンサルタントの多様な活用を図り、品質向上を実現するため、設計共同体方式の更なる活用を提案する。

⑧不当な取引制限や不当な低価格競争等を排除し、コンプライアンスを遵守する。

の提案があり、続いて、各委員会の委員長から各々の委員会での事業計画の説明がなされた。

(3) 令和元年度収支予算について

事務局長から説明があり、その後質疑があったが、質問は無く終了した。

第1号議案 平成30年度決算について

事務局長から決算報告の説明があり続いて、木村監事から会計監査結果報告がなされ、承認されました。

第2号議案 役員の選任について

事務局長から支部役員の改選について、支部役員推薦者名簿の提案説明があり、その後、満場一致をもって承認可決された。

その後、支部長より新役員の紹介があった。

その他 意見・質問は無く、その後伊藤副支部長から閉会の挨拶があり、15：45終了しました。

令和元年度「建設コンサルタントの要望と提案」意見交換会

7月22日（月）パレス宮城野において本部と東北地方整備局・東北各県及び仙台市との意見交換会を開催しました。

出席者

（東北地方整備局）

佐藤局長、上坂副局長、川上副局長、西尾企画部長、二橋建政部長、加邊河川部長、酒井道路部長、酒井港湾空港部長、一戸技術調整管理官、亀井技術開発調整官、赤平技術管理課長、

（青森県）下村県土整備部 次長

（岩手県）中平技監兼県土整備部 河川港湾担当技監

（宮城県）金子土木部技監兼次長（技術担当）

（秋田県）佐藤建設部 建設産業振興統括監

（山形県）早坂県土整備部 整備推進監（兼）次長

（福島県）相澤土木部次長（企画技術担当）

（仙台市）太田都市整備局 参事

（建設コンサルタンツ協会）

高野会長、野崎副会長、酒井副会長、永治常任理事、中村常任理事、重永常任理事、高久常任理事、花岡常任理事、末澤常任理事、大村対外活動部会委員、松田常任委員長、三百田対外活動副委員長、加本参与、浅古業務部長、柳澤企画次長、三浦インフラストラクチャー研究員

（建設コンサルタンツ協会東北支部）

菅原支部長、伊藤副支部長、村上副支部長、向田対外活動委員長、木村広報委員長、小泉総務部会長、佐藤地域コン委員長、光森技術部会長、松永情報部会長

はじめに東北地方整備局佐藤局長および建コン高野会長の挨拶、次に出席者紹介があり、次の様な意見交換が行われました。

意見交換

「建設コンサルタントの要望と提案」

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上



（佐藤局長挨拶）



（高野会長挨拶）

9月2日「災害時対応演習」を実施

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方に激甚な被害をもたらしました。震災から8年半、復旧・復興へ向けて国、自治体あげて懸命の取り組みが続いております。東北支部も大震災では国、宮城県との災害協定に基づき、被災状況の調査などに取り組みましたが、この震災対応を今後の被害対応に生かすべく、東北各県との災害協定の締結など検討を進めているところです。

建設コンサルタンツ協会では、毎年「災害時行動計画」に基づく演習を毎年実施しております。

本年度は9月2日（月）近畿支部管内においてマグニチュード8の大規模地震が発生し、東北支部に災害対策支部を設置したとの想定で演習を実施しました。

- ① 近畿支部に災害対策現地本部を設置するとともに本部に災害対策本部を設置
 - ・災害対策本部から各支部に対し災害対策の指示
 - ・上記指示に基づき支部長から災害対策支部員の招集、災害対策東北支部設置
 - ・災害対策東北支部から災害対策本部へ支部設置の報告
- ② 災害対策支部員から「連絡会員」へ被害状況を携帯電話により照会
→連絡会員から被害状況をFAXにて受信
- ③ 災害対策本部及び災害対策現地本部から災害時行動支援の要請
- ④ 災害対策東北支部から「調査員の派遣」を協議・調査員派遣会員から災害地現地調査員の派遣の同意をFAXにて受信

今回の演習にあたり支部の「防災演習計画」及び進行予定表を作成し、その中で支部会員103社の内14社を「連絡会員」として、また12社を「災害現地調査派遣会員」に抽出し連絡伝達等の演習を行うこととした。

また、会員各社には、会社独自の演習を実施するよう要請しました。

※実施項目 1. 建物（特にエレベーター）、什器、備品類～損壊、転倒等の点検

2. 停電、断水、ガス漏れの点検
3. 消火器（使用期限）、トランジスタラジオ、携帯電話、懐中電灯の点検
4. 非常用保存食品、救急医薬品、作業用具の点検
5. 出張職員等の安否の確認

今回の演習の通信連絡はEメール、FAX、電話の併用ですが、「災害伝言ダイヤル」も運用されました。

「連絡会員」及び「災害現地調査会員」にご指名されました会員各社には、ご多忙の中ご協力いただきありがとうございました。



連絡会員会社に被災状況照会する災害対策東北支部員

連絡会員

アジア航測(株)、(株)ウエスコ、川崎地質(株)、基礎地盤コンサルタンツ(株)、(株)キタック、国際航業(株)、昭和(株)、(株)昭和土木設計、(株)総合技術コンサルタント、(株)地圏総合コンサルタント、中央復建コンサルタント(株)、(株)東建工営、(株)日本港湾コンサルタント、(株)東日本コンサルタント

災害現地調査会員

いであ(株)、エイト技術(株)、(株)片平新日本技研、(株)菊池技研コンサルタント、(株)郡山測量設計社、(株)国際開発コンサルタンツ、(株)三協技術、創和技術(株)、(株)千代田コンサルタント、(株)ドーコン、日本振興(株)、(株)復建技術コンサルタント

「ICT専門委員会」の紹介

ICT専門委員長

株式会社復建技術コンサルタント 市川 健

1. 建設コンサルタンツ協会東北支部技術部会

「ICT専門委員会」について

「ICT専門委員会」は、令和元年5月、「令和元年度建コン東北支部技術部会総会」において、技術部会事業計画（案）を提示し承認を得て設立された、技術部会でもっとも新しい専門委員会である。

当委員会発足の背景は幾つかあるが、特に大きなものは以下の3つである。

- 1) ICT、CIMに対する取組み姿勢が企業や地域でその差が大きい
- 2) ICT、CIM業務の効率化が進んでいない
- 3) 東北支部技術部会内にICT、CIMに対応する専門部署がなかった

ICT専門委員会はBIM/CIMのみを扱うのではなく、ICTやIoT、i-Conなども含め、技術部会に関わるこれらについて広く携わる予定である。

2. 「ICT専門委員会」のメンバー

「ICT専門委員会」のメンバーは、以下のとおり10社10名で構成されている。委員は、道路設計や橋梁（新設・維持補修）設計、交通工学、河川、地盤調査、斜面防災等、様々な専門分野の技術者である。

役職	氏名	勤務先
委員長	市川 健	(株)復建技術コンサルタント
副委員長	審良 郁夫	(株)オリエンタルコンサルタンツ
〃	柳木 功宏	(株)建設技術研究所
委員	石川 正樹	日本工営(株)
〃	高橋 裕行	大日本コンサルタント(株)
〃	柳 仁	(株)東京建設コンサルタント
〃	佐久間 謙史	パシフィックコンサルタンツ(株)
〃	信夫 芳広	八千代エンジニアリング(株)
〃	落合 達也	アジア航測(株)
〃	三浦 康孝	セントラルコンサルタント(株)

他の専門委員会と比較して決して大人数ではないが、会議では色々なアイデアを出し合い、活発な意見交換などを行っている。

3. 「ICT専門委員会」活動計画

本年5月の建コン東北支部技術部会総会により正式発足したICT専門委員会であるが、今年度は5回程度の会合を中心に、アンケート調査やICT関連の講習会講師等を予定している。7月末までに以下に示す2回の会合を行った。

- 1) 第1回会合：令和元年5月23日（木）
(株)復建技術コンサルタント 会議室
- 2) 第2回会合：令和元年7月3日（水）
セントラルコンサルタント(株) 会議室



会議では活発な意見交換が行われている

4. おわりに

当委員会は、本年5月の支部技術部会総会により正式発足した部会である。

初年度である今年は、当委員会をどのように運営していくべきかを深く考え、また、技術部会の他の専門委員会や情報部会と連携を密にし、よりよい活動を行っていきたいと考えている。

関係者の皆様に「建コン東北支部技術部会にICT専門委員会ができてよかった」、と感じていただけるような委員会活動を委員全員で行っていききたい。

以上

(一社) 建設コンサルタンツ協会 東北支部 50周年記念事業実行委員会

実行委員長 松 川 秀 敏

1. はじめに

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部は昭和43年に創立し、この度50年を迎えることができました。当支部では創立50周年を記念いたしまして、平成30年11月9日(金) ホテルメトロポリタンで創立50周年記念講演、記念式典・祝賀会を開催致しました。



【50周年記念式典会場の風景】

2. 事業内容

50周年記念事業として以下を執り行いました。

- ・ 記念講演
- ・ 記念式典・祝賀会
- ・ 社会インフラ写真コンテスト
- ・ 創立50周年記念誌の発行

3. 記念講演

講師として橋本五郎氏をお招きし、「どうなる日本・どうなる東北」と題して講演をしていただきました。



【講演中の橋本五郎氏】

4. 記念式典・祝賀会

記念式典では感謝状贈呈や功労者表彰式などが行われ、祝賀会のアトラクションでは津軽三味線の生演奏が披露されました。



【「津軽三味線姉妹ユニットゆりあい」による演奏】

5. 社会インフラ写真コンテスト

平成20年以降に完成した『行ってみたくなる東北の社会インフラ』写真コンテストを開催いたしました。

6. 創立50周年記念誌の発行

記念事業の他に東北支部のあらし、会員の推移、部会活動、歴代役員等をまとめた創立50周年記念誌を令和元年5月に発行いたしました。

7. 50周年記念事業実行委員会

50周年記念事業実行委員会の委員を紹介します。

- 統括：伊藤 篤 (東北支部副支部長)
実行委員長：松川 秀敏(広報委員長)
委員：小泉 勝則(総務部会副部会長)
委員：佐藤 和昭(企画部会副部会長)
委員：向田 昇 (対外活動副委員長)
委員：野村 稔彦(技術部会副部会長)
委員：今泉 敏郎(技術交流専門委員会委員長)
委員：熊坂 徹也(情報部会副部会長)
事務局：広報委員会

※ () 内は平成30年3月1日現在

8. おわりに

50周年記念事業の実施にあたり、支部協会会員をはじめ関係者の皆様にはいろいろな形でご協力いただき、この場をお借りいたしまして、心よりお礼申し上げます。誠に有難うございました。

以 上

建設技術公開 EE東北'19について

去る令和元年6月5日～6日の2日間にわたり、建設事業の新材料、新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開する『建設技術公開 EE東北'19（イーイトウホク イチキュー）』が夢メッセみやぎで開催されました。EE東北は Engineering Exhibition（エンジニアリング エキシビション）の略で、技術の普及を図ることにより、さらなる新たな技術開発の促進と、良質な社会資本整備を通じて地域社会に寄与することを目的としています。

主催はEE東北実行委員会（委員長・東北地方整備局・企画部長）で、建設コンサルタンツ協会東北支部を含む19の建設関連団体等が構成団体となっております。

出展技術数は過去最高の891技術の展示となり、また本館会議棟大ホールでは64の新技術プレゼンテーションが行われました。

来場者数は6月5日（水）が8,800人、6月6日（木）が7,700人で2日間延べ16,500人にのぼり、昨年度の来場者数を200人上回る過去最高を記録しました。

■開催概要

期 間：2019年6月5日（水）～6月6日（木）
場 所：みやぎ産業交流センター《夢メッセみやぎ》
来場者数：16,500人（過去最多）；主催者発表値
出展者数：295団体・企業
出展技術：891（過去最多）

また、昨年度に引き続き、西館においてUAV（ドローン）競技会が行われ、飛行技術と計測技術（空撮測量）を競う総合技術部門では、タックエンジニアリング・昭和土木設計が優勝しました。

建設コンサルタンツ協会東北支部会員からは以下の通り27社（グループ出展を含む）が参加し、新技術の紹介を行いました。



オープニングセレモニー



会場の様子



会場の様子

■ EE東北 '19出展社・技術一覧（協会員）

	企業名	出展技術名	概 要
1	朝日航洋(株)	河川管理・点検におけるセンシング技術	陸・海（川）・空から河川管理施設を3次元測量し、管理・点検を支援
		交通インフラ維持管理サポート技術	GISと3次元点群データを活用した道路・構造物の維持管理支援システム
		ドローンサポートサービス	①ドローン測量クラウドサービス「くみき」「早い」「安い」「簡単」 ②ドローンの有効活用を支援
2	アジア航測(株)	ALB航空レーザ測深機	空から河川や海の水深が測れる最先端航空レーザ測深機（ALB）
		赤色立体地図	誰でも可能な地形判読、地球の素顔が見える地図
		Road Profiling System	道路周辺の3次元点群と360°映像の収集と高精細な路面調査
3	(株)ウスマ地域総研	地上・水中・空中3次元計測技術の融合活用	TLS計測・UAV計測・ADCP計測のハイブリット化によるダイナミックな3次元地形データの提供
4	応用地質(株)	樹木総合診断サービス	低コストかつスピーディーに幹内部の腐朽や根系の分布状況を非破壊で診断することが可能
		地質リスク情報可視化サービス	地盤リスクの見える化により事業の安全・安心に貢献
		衛星画像解析による広域ネットワーク管理	衛星画像を用いた効率的な維持管理をご提案
		道路施設管理	次世代の道路構造物のインフラマネジメントのプラットフォームを構築
		空洞埋設管位置計測装置	コンパクト 地中レーダー「ユーティリティスキキャン スマート」は埋設管や空洞調査を簡便に実施
5	オリエンタルコンサルタンツホールディングス (株)オリエンタルコンサルタンツ	インフラ施設の長寿命化計画策定支援システム	インフラ施設における個別施設（橋梁など）の長寿命化計画の策定・更新の効率化を支援
		GISを活用した斜面リスクのスクリーニング	GISハザード重ね図を用いて斜面リスクをスクリーニング
		リアルタイム所要時間提供システム	ETC通信を活用した新たな調査手法により、所要時間情報をリアルタイムに提供
6	オリエンタルコンサルタンツホールディングス (株)アサノ大成基礎エンジニアリング	光ファイバーを活用した河川堤防の計測技術	長期耐久性に優れた光センシング技術をインフラ維持管理に適用
		観測孔を利用した地下水の流向流速測定	観測孔用に開発した新型流向流速計（Type-40）地下水流動特性を簡易＋短時間＋高精度で把握
7	オリエンタルコンサルタンツホールディングス (株)エイテック	ドローン（UAV）の有効活用	ドローンの特長を生かした空からの計測データの有効活用
		3Dレーザスキャナの活用事例	短時間による高精度・高密度の3次元計測空間情報技術の活用～インフラ保全～
8	オリエンタルコンサルタンツホールディングス (株)リサーチアンドソリューション	道路構造物点検支援システム	タブレットを用いて橋梁点検業務を実施、点検業務の効率化・省力化を支援
		道路巡回点検支援システム	スマートフォンの業務活用により道路巡回点検業務の効率化・省力化を支援
9	(株)建設環境研究所	AIを活用した音声入力による樋門等点検システム	AIを活用した音声入力による樋門等点検システムを用いて、点検業務の効率化を支援
10	(株)建設技術研究所	水災害リスクマッピングシステム	浸水リスクなどの情報をリアルタイムで提供するサービス
		水理模型実験と水理解析の連携技術	縮尺模型水路実験と数値解析により水理現象を把握し、適切な河川改修計画の技術的サポート
		河川堤防の浸透対策工法の開発	既設堤防の開削が不要となるスクリーパイプによるドレーンを用いた浸透対策工法（SPドレーン工法）
		環境DNA解析技術	環境DNA解析技術の既往調査への応用の可能性の検討
		ラウンドアバウトによる平面交差点設計	VR（バーチャル・リアリティ）を活用したラウンドアバウトの設計
		地質情報の高度利用	地質部門の保有技術紹介
11	(株)構研エンジニアリング	既設落石防護擁壁の補強工法「ソイルバンパー」	既設無筋コンクリート製落石防護擁壁の耐衝撃性を1,000kJ級に向上させるための緩衝システム
		道路トンネル点検システム「ロードビューワ」	道路トンネル点検において、複数台のカメラでトンネル内の動画を撮影し、連続展開画像を作成するシステム
		移動式定点撮影システム	GPS位置情報を利用した移動式定点撮影システムプログラミングにより同一箇所の繰り返し自動撮影が可能

	企業名	出展技術名	概 要
12	国際航業(株) / (株)センソクコンサルタント	GNSS衛星測位を用いた自動変位計測・監視サービス	shamen-net 三次元計測で地表の変位を常時計測・監視。mm単位の計測で災害の予兆を捉える
		屋内外シームレスな位置情報取得プラットフォーム	位置情報を活用し、「人・モノ」の動態管理を実現
		i-Construction に活用（空間情報技術）	i-Construction へさまざまな支援、サービスを提供
13	サンコーコンサルタント(株)	三次元計測・探査・評価技術	様々な3次元計測・探査・評価技術と AR・VR の CIM への適用
14	(株)タックエンジニアリング / (株)昭和土木設計	固定翼・回転翼ドローン “二刀流” 調査	航測ダウンサイジング!! ドローンによる 3D 計測・最新 3D 表現技術で効率的な点検・維持管理
		ICT を活用した 3D 設計イノベーション	ICT を活用した建設生産の最適化へのアプローチ
15	(株)ダイエツ	画像診断・計測技術を活用した橋梁点検	橋梁を高性能カメラで点検・診断を行う画像スクリーニング技術
		ドローン（UAV）を活用した計測技術	UAV を活用した測量技術で多彩なモデリングを提供
		走行画像計測によるトンネル点検	トンネル等の構造物を高解像度ビデオカメラで点検・診断を行う画像スクリーニング技術
16	大日本コンサルタント(株)	特殊橋梁を含む橋梁の耐震補強技術	当社が保有する耐震補強技術等を活用した、橋梁耐震補強計画のサポート
		地震・津波・高潮の橋梁、海岸堤防の複合防災技術	地震・津波・高潮・漂流物対策を目的とした数値解析による粘り強い構造物の評価技術
		地震時における斜面崩壊の予想技術	地震時の斜面の崩壊を事前に予測して、路線ネットワークの防災・減災計画に活用
17	中央開発(株)	斜面崩壊検知 センサー「感太郎」	設置の簡素化・多点化を可能にする軽量・省エネ・狭小・安価な斜面崩壊感知センサー
		懸濁気泡水ボーリング工法「IFCS 工法」	緩い砂から破砕帯まで微細気泡水による高品質コア試料の採取
		土壌中有害物質簡易分析	簡易で迅速な有害重金属類の分析法
		簡易型多段式孔内傾斜計「K 太」	地中傾斜変動を多段設置した傾斜センサーで捉える簡易型多段式孔内傾斜計
18	長大グループ (株)長大	斜張橋ケーブル点検ロボットの画像処理技術の開発	斜張橋ケーブル点検ロボットの撮影動画からケーブル外観の展開図を作成して損傷箇所を自動検出するシステム
		観光振興ソリューションサービス	“観光情報の提供”+“移動データの収集”で『観光地のインサイトを紐解く』
		生分解型粉塵防止剤「バイオグリーンシールド」	水で薄めて地面に撒くだけ。使用後は生分解作用で元通り
19	長大グループ 基礎地盤コンサルタンツ(株)	G P（ゲルプッシュ）サンプリング	G P サンプリングは、試料を高濃度ポリマーで包むことで、乱さない地盤試料を高品質で採取
		衛星 SAR による土構造物のモニタリング	干渉 SAR により広範囲の土構造物の経年変状を一括抽出し維持管理の効率化を図る
		洋上風力発電開発における地盤調査	「音波探査」「海上 CPT 調査」「ボーリング調査」を組み合わせる海底地盤状況の評価
20	(株)東京建設コンサルタント / (株)東建エンジニアリング	画像処理型非接触流速計測技術（ASP）	標定点のいらない標定手法による画像処理型非接触流速計測の解析機能を WEB サービス（ASP）で提供
		3ch 小型電波式流速計	洪水時の表面流速分布を無人で観測する機器
		開水路流量自動観測装置	開水路の流量を無人で自動観測する装置
21	(株)ドーコン	サイクルツーリズム振興	大型バストラックルームへの自転車積載装置の開発
		C S G 技術	コスト縮減と環境負荷軽減に資する C S G 技術
		最適な道路吹雪対策の提案	移動気象観測車による調査及び吹雪の数値シミュレーション
22	(株)土木技研	自治体道路支援システム	時系列データベースと横断的プラットフォームをあわせた未来型維持管理システムの提案
23	日本工営グループ 日本工営(株)	侵食防止及び植生の自然侵入促進をはかる土壌藻類資材	【BSC-1】土壌藻類が形成するバイオロジカル・ソイル・クラストの侵食防止効果に着目した新しい資材
		BIM/CIM モデルの活用 VR・AR 技術	“見て、体験・実感する！”BIM/CIM モデルの効果的な活用

	企業名	出展技術名	概 要
24	日本工営グループ 玉野総合コンサルタント(株)	用地取得マネジメント支援システム	特許取得／事業予定地のルート比較による事業費や用地取得のリスクを考慮した事業期間のシミュレーション
		下水道管理システム及びアセットマネジメントシステム	下水道事業運営の『健康診断』の提案
25	日本工営グループ 日本シビックコンサルタント(株)	多機能変換型 TBM	TBM のカッターと隔壁に開口扉を設けることで NATM への変更を容易とし、破砕帯等への対応性向上
26	(株)ニュージェック	IRI ワイヤレス路面測定装置「ACTUS」	ワイヤレス 加速度センサー・遠隔データ通信を活用した未来志向の路面モニタリング技術
		ニュージェックの BIM/CIM の取組み	BIM/CIM 活用の現状と取組み
27	パシフィックコンサルタンツ(株)	マルチビーム測量無人ボート【EchoBoat】	マルチビーム測量により高精度な水中部と陸上部の3次元モデルを構築。計測の低コスト化、効率化を実現
		防災業務支援システム－災害対応を確実に！効率的に！	タイムライン通知で災害時対応を遅滞なく確実に！水位・カメラ・気象情報などを一元的に表示！
		雨を調べる！土砂災害から逃げる！どしゃブル	どしゃブルの降雨通知で雨と楽しく生活！いざというとき土砂災害の危険性をお知らせ
		河川流量算出ソフト／観測システム DIEX-Flow	流体の運動方程式に基づいた流速内外挿によって、河川流量観測を高効率化・低コスト化・高精度化
		モバイル PCR 装置を用いた環境 DNA 分析の迅速化	環境水に含まれる DNA を現場で分析し、調べたい生物がいるのかを約30分で明らかに
		走行型計測によるトンネル調査 M I M M - R	走行型計測技術による高精度地形測量およびトンネル調査システム【M I M M - R】
		新技術プロデュース事業	新技術・保有技術の活用拡大に向けた提案、公的認証取得支援等により新たな価値創造を目指す
		スマホによるパトロール・点検支援システム	スマホ等でパトロール・点検結果を簡単登録！「パトロイドシリーズ」に苦情処理機能を追加
28	(株)バスコ	MMS による河川堤防及び道路の巡視点検技術	MMS を活用した河川堤防及び道路の巡視点検業務を支援
		自動運転の実現に向けた地理空間情報活用技術	自動運転用高精度3次元デジタル地図(ダイナミックマップ)作成支援
		衛星による変動モニタリング技術	地球観測衛星による広域且つ定期的な観測。山間部や流域の変位・変化等を検知し、維持管理業務を支援
29	(株)復建技術コンサルタント	「e-River」による中小河川の維持管理技術	中小河川に特化して開発した河川管理用ソフト「e-River」と UAV 画像を活用した河川管理の効率化
		カート式レーダによる非破壊調査技術	カート式レーダによるコンクリート床版内部の非破壊調査とその判定
		アンカー維持管理技術(健全度調査)	防錆油色差判定方法の構築
		地震に強いまちづくりのための宅地耐震化技術	大地震による宅地地盤の被害状況とその災害復旧および防災・減災のための取り組み
		環境 DNA を活用した河川管理	次世代の環境調査手法【環境 DNA】生物の観察や捕獲の必要がない手法による河川管理の試み
30	三井共同建設コンサルタント(株)	RRI モデルを用いたリアルタイム氾濫予測	降雨・流出から洪水氾濫までを流域スケールで一体的に解析できる次世代の洪水予測モデル
		IoT 技術を活用した維持管理の効率化	現場環境、稼働状況がリアルタイムで見える IoT システム
		羊を活用した除草手法の導入	道路・河川堤防の法面における経費削減と地域住民の印象も良い除草方法の提案

東北地方整備局 HP より抜粋（公表名簿順）

令和元年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 局長表彰 一覧

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
青森管内交通計画検討業務 ケー・シー・エス・復建技術 コンサルタント設計共同体	青森管内交通計画検討業務	(管理技術者) 吉 富 貴 洋	東京都 文京区	青 森 河川国道	土 木 (道路)
いであ (株) 青森営業所	岩木川樹木管理計画検討業務	(管理技術者) 半 沢 諭	青森県 青森市	青 森 河川国道	土 木 (河川)
(株) 建設技術研究所 東北支社	小川原湖水環境対策効果検討業務	(管理技術者) 鶴 田 泰 士	仙台市 青葉区	高 瀬 川 河 川	土 木 (環境調査)
パシフィックコンサルタンツ (株) 盛岡事務所	火山噴火緊急減災対策検討業務	(管理技術者) 澤 田 悦 史	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	土 木 (砂防・地すべり)
(株) パスコ 盛岡支店	北上川上流地形図等作成業務	(主任技術者) 近 政 英	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	測 量
(株) 復建技術コンサルタント 盛岡支店	宮古盛岡地区水文調査	(主任技術者) 奈 倉 弘	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	地質調査
エイト技術 (株)	田野畑久慈地区外用地調査等業務	(主任担当者) 竹ヶ原 秀晴	青森県 八戸市	三陸国道	補 償
復興道路等の整備による経済 波及効果検討業務復建技術・ 計量計画研究所・日本みち研 究所設計共同体	復興道路等の整備による経済波及 効果検討業務	(管理技術者) 武 田 芳 丈	岩手県 盛岡市	三陸国道	土 木 (道路)
日本工営 (株) 北東北事務所	三陸北地区水文調査	(主任技術者) 高 橋 昌 弘	岩手県 盛岡市	三陸国道	地質調査
熊谷組・三井共同建設コンサル タント・公共用地補償機構・ オリエンタル白石設計共同体	三陸沿岸道路事業監理業務 (吉浜釜石工区)	(管理技術者) 広 瀬 俊 文	仙台市 青葉区	南三陸国道	土 木 (その他(発注者支援))
長大・ドーコン・ウヌマ地域総 研・前田建設工業設計共同体	三陸沿岸道路事業監理業務 (陸前高田工区)	(管理技術者) 中 林 真 人	仙台市 若林区	南三陸国道	土 木 (その他(発注者支援))
(株) 福山コンサルタント 北東北事務所	南三陸整備効果検討業務	(管理技術者) 原 田 慎 也	岩手県 盛岡市	南三陸国道	土 木 (道路)
(株) 三和技術コンサルタント	気仙沼唐桑南地区用地調査等業務	(主任担当者) 布 施 昭 弘	山形県 村山市	仙 台 河川国道	補 償
東北地域づくり・近代設計設 計共同体	仙台河川国道管内交通安全事業外監 理業務	(管理技術者) 高 橋 重 道	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
三井共同建設コンサルタント (株) 東北支社	善川遊水地等詳細設計業務	(管理技術者) 横 川 勝 美	仙台市 青葉区	北上川下流 河 川	土 木 (河川)
北上川下流管内河口部堤防 復旧施工監理設計業務パシ フィックコンサルタンツ・エ フワーク設計共同体	北上川下流管内河口部堤防復旧施工 監理設計業務	(管理技術者) 畠 山 直 樹	仙台市 青葉区	北上川下流 河 川	土 木 (河川)
(株) 建設技術研究所 東北支社	鳴瀬川総合開発基本計画検討業務	(管理技術者) 高坂 保孝加	仙台市 青葉区	鳴瀬川総合 開発工事	土 木 (ダム)
(株) 東京建設コンサルタント 東北支社	雄物川下流河道整備検討業務	(管理技術者) 内 田 一 裕	仙台市 青葉区	秋 田 河川国道	土 木 (河川)
(株) 長大仙台支社	秋田管内橋梁調査設計業務	(管理技術者) 野 本 淳 也	仙台市 若林区	秋 田 河川国道	土 木 (橋梁)
(株) 復建技術コンサルタント 秋田支店	役内川橋詳細設計業務	(管理技術者) 石 橋 努	秋田県 秋田市	湯 沢 河川国道	土 木 (橋梁)
セントラルコンサルタント (株) 東北支社秋田営業所	二ツ井今泉道路詳細設計業務	(管理技術者) 野 村 徹	秋田県 秋田市	能 代 河川国道	土 木 (道路)
日本工営 (株) 秋田営業所	成瀬ダムダムサイト周辺地質検討業務	(管理技術者) 畚 野 匡	秋田県 秋田市	成瀬ダム	土 木 (ダム)
(株) ウヌマ地域総研	鳥海ダム付替道路予備修正設計業務	(管理技術者) 梅 沢 武 人	秋田県 秋田市	鳥海ダム	土 木 (道路)

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株) 福山コンサルタント 東北支社	山形管内交通量推計業務	(管理技術者) 石 倉 麻 志	仙台市 青葉区	山 形 河川国道	土 木 (道路)
(株) 三和技術コンサルタント	最上川上流流量調査・縦横断測量 (村山地区)	(主任技術者) 小 野 光 弘	山形県 村山市	山 形 河川国道	測 量
(株) ドーコン 東北支店	日本海沿岸東北自動車道事業認定申 請図書作成業務	(主任担当者) 春 木 明 男	仙台市 青葉区	酒 田 河川国道	補 償
(株) ニュージェック 山形事務所	新庄管内土砂災害発生降雨解析検討 業務	(管理技術者) 牧 野 裕 至	山形県 山形市	新庄河川	土 木 (砂防・地すべり)
セントラルコンサルタント(株) 東北支社 福島営業所	藤地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 佐 藤 宗 孝	福島県 福島市	郡山国道	土 木 (橋梁)
郡山国道管内構造物外点検業 務建設環境研究所・三協技術 設計共同体	郡山国道管内構造物外点検業務	(管理技術者) 向 井 秀 一	東京都 豊島区	郡山国道	土 木 (道路)
(株) 三和技術コンサルタント	勿来バイパス物件調査等業務	(主任担当者) 佐 藤 信 彦	山形県 村山市	磐城国道	補 償
新和設計 (株)	白川ダム流量観測及び採水等調査	(主任技術者) 齋 藤 恵 太	山形県 米沢市	最上川ダム 統合管理	測 量
陸奥テックコンサルタント(株)	三春ダム水文観測等業務	(主任技術者) 今 村 元	福島県 郡山市	三春ダム	測 量
応用地質 (株) 東北事務所	摺上川ダム水辺現地調査 (陸上昆虫類等) 業務	(管理技術者) 浅 見 和 弘	仙台市 宮城野区	摺上川ダム	土 木 (環境調査)
日本工営 (株) 仙台支店	河道特性把握検討業務	(管理技術者) 秋 田 麗 子	仙台市 青葉区	東北技術	土 木 (河川)
(株) 長大 仙台支社	道路交通の円滑化に向けた調査検討 業務	(管理技術者) 西 坂 淳	仙台市 若林区	道 路 部	土 木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株)	既存係留施設における重量物取扱い に関する設計検討業務	(管理技術者) 山 口 達 治	仙台市 青葉区	仙台技調	港 湾 (設計)

東北地方整備局 HP より抜粋（公表名簿順）

令和元年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 事務所長表彰 一覧

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株) 建設技術研究所 東北支社	馬淵川整備計画等検討業務	(管理技術者) 高 見 隆 三	仙台市 青葉区	青 森 河川国道	土 木 (河川)
(株) ニュージェック 青森事務所	売市地区電線共同溝設計業務	(管理技術者) 深 瀬 貴 之	青森県 青森市	青 森 河川国道	土 木 (道路)
(株) コサカ技研	青森管内交通量調査	(主任技術者) 木 戸 暁 登	青森県 八戸市	青 森 河川国道	測 量
いであ (株) 青森営業所	高瀬川治水対策調査検討業務	(管理技術者) 小 原 一 哉	青森県 青森市	高 瀬 川 河 川	土 木 (河川)
いであ (株) 盛岡営業所	北上川上流河川改修事業評価検討業務	(管理技術者) 小 原 一 哉	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	土 木 (河川)
大日本コンサルタント (株) 盛岡事務所	盛岡地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 竹 田 竜 一	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	土 木 (橋梁)
国際航業 (株) 盛岡支店	岩手河川国道事務所管内道路防災点 検補修設計業務	(管理技術者) 中 村 芳 貴	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	土 木 (道路)
(株) 東京建設コンサルタント 岩手事務所	三陸沿岸地域環境調査	(管理技術者) 小 坂 秀 樹	岩手県 盛岡市	三陸国道	土 木 (環境調査)
(株) ウヌマ地域総研 盛岡支社	久慈洋野地区補足設計業務	(管理技術者) 藤 田 勝	岩手県 盛岡市	三陸国道	土 木 (道路)
大日本コンサルタント (株) 盛岡事務所	田野畑普代地区補足設計業務	(管理技術者) 井 上 敬 一	岩手県 盛岡市	三陸国道	土 木 (道路)
セントラルコンサルタント (株) 東北支社盛岡営業所	宮古田老道路補足設計業務	(管理技術者) 野 村 徹	岩手県 盛岡市	三陸国道	土 木 (道路)
(株) 菊池技研コンサルタント	三陸国道管内測量設計業務	(管理技術者) 鈴 木 隆	岩手県 大船渡市	三陸国道	土 木 (道路)
東邦技術 (株)	三陸沿岸道路 (吉浜釜石外) 用地調査 等業務	(主任担当者) 佐々木 好夫	秋田県 大仙市	南三陸国道	補 償
南三陸釜石地区道路設計業務 菊池技研コンサルタント・オ リエンタルコンサルタンツ設 計共同体 ((株) 菊池技研コン サルタント・(株) オリエンタ ルコンサルタンツ)	南三陸釜石地区道路設計業務	(管理技術者) 鈴 木 隆	岩手県大 船渡市	南三陸国道	土 木 (道路)
(株) ニュージェック 東北支店	前田町地区電線共同溝詳細設計業務	(管理技術者) 岡 田 範 彦	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
日本工営 (株) 仙台支店	宮城県内渋滞対策等検討業務	(管理技術者) 石 川 正 樹	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
(株) 長大 仙台支社	道路管理データベース更新業務	(管理技術者) 江 中 正 宏	仙台市 若林区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
(株) 復建技術コンサルタント	三陸沿岸道路歌津唐桑地区構造物設 計他業務	(管理技術者) 青 沼 慎 也	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
大日本コンサルタント (株) 東北支社	大衡地区道路計画設計業務	(管理技術者) 井 上 敬 一	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
(株) 片平新日本技研 東北支店	仙台管内道路交通現況調査業務	(主任技術者) 伊 藤 亜 生	仙台市 若林区	仙 台 河川国道	測 量
国際航業 (株) 仙台支店	仙台湾沿岸深浅測量業務	(主任技術者) 石 田 覚	仙台市 若林区	仙 台 河川国道	測 量
朝日航洋 (株) 東北空情支社	北上川下流管内航空レーザ測量	(主任技術者) 木 村 信 太	仙台市 泉区	北 上 川 下流河川	測 量
鳴瀬川総合開発基礎岩盤特性 検討業務日本工営・ハイテッ ク設計共同体	鳴瀬川総合開発基礎岩盤特性検討業務	(管理技術者) 片 岡 一 喜	仙台市 青葉区	鳴瀬川総合 開発工事	地質調査

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
東邦技術（株）	雄物川下流相川地区外用地調査等業務	（主任担当者） 小田島 誠一	秋田県 大仙市	秋 田 河川国道	補 償
秋田管内道路防災点検業務 国際航業・明治コンサルタント設計共同体	秋田管内道路防災点検業務	（管理技術者） 近 藤 敏 光	秋田県 秋田市	秋 田 河川国道	土 木 （道路）
川崎地質（株） 北日本支社	雄物川下流芝野地区堤防強化検討業務	（管理技術者） 太 田 史 朗	仙台市 宮城野区	秋 田 河川国道	土 木 （河川）
（株）ウヌマ地域総研	雄物川下流（秋田地区）平成30年 5月洪水痕跡調査	（主任技術者） 石 綿 智 幸	秋田県 秋田市	秋 田 河川国道	測 量
（株）ウヌマ地域総研	雄勝地区補足測量業務	（主任技術者） 石 綿 智 幸	秋田県 秋田市	湯 沢 河川国道	測 量
中央復建コンサルタンツ（株） 東北支社	横堀トンネル詳細設計業務	（管理技術者） 宮 城 大 助	仙台市 青葉区	湯 沢 河川国道	土 木 （トンネル）
（株）建設技術研究所 東北支社	米代川河川整備計画検討業務	（管理技術者） 中 嶋 洋 平	仙台市 青葉区	能 代 河川国道	土 木 （河川）
中央復建コンサルタンツ（株） 東北支社	今泉トンネル詳細設計業務	（管理技術者） 寒 竹 英 貴	仙台市 青葉区	能 代 河川国道	土 木 （トンネル）
（株）福田水文センター	米代川鷹巣出張所管内河川管理施設 監理検討業務	（管理技術者） 大 熊 正 信	札幌市 北 区	能 代 河川国道	土 木 （河川）
（株）復建技術コンサルタント 秋田支店	二ツ井切石地区橋梁詳細設計業務	（管理技術者） 石 橋 努	秋田県 秋田市	能 代 河川国道	土 木 （橋梁）
朝日航洋（株） 東北空情支社	森吉山ダム堆砂測量	（主任技術者） 中 内 隆 幸	仙台市 泉 区	能 代 河川国道	測 量
能代管内橋梁補修設計業務長大・ウヌマ地域総研設計共同体代表者（株）長大仙台支社	能代管内橋梁補修設計業務	（管理技術者） 野 本 淳 也	仙台市 若林区	能 代 河川国道	土 木 （橋梁）
（株）福山コンサルタント 秋田営業所	二ツ井今泉地区整備効果検討業務	（管理技術者） 原 田 慎 也	秋田県 秋田市	能 代 河川国道	土 木 （道路）
（株）オリエンタルコンサルタンツ 秋田事務所	能代管内事故対策検討業務	（管理技術者） 松 戸 努	秋田県 秋田市	能 代 河川国道	土 木 （道路）
エイト技術（株）	成瀬ダム（木賊沢地区）用地調査等 業務	（主任担当者） 太 田 勝 久	青森県 八戸市	成瀬ダム	補 償
成瀬ダム景観検討業務水源地 環境センター・東京建設コン サルタント設計共同体	成瀬ダム景観検討業務	（管理技術者） 高 橋 定 雄	東京都 千代田区	成瀬ダム	土 木 （ダム）
（株）建設環境研究所 東北支社	鳥海ダム植物等調査	（管理技術者） 沼 沢 信 一	仙台市 宮城野区	鳥 海 ダム工事	土 木 （環境調査）
（株）復建技術コンサルタント 山形支店	山形河川国道橋梁耐震補強設計業務	（管理技術者） 鈴 木 勝 浩	山形県 山形市	山 形 河川国道	土 木 （橋梁）
（株）寒河江測量設計事務所	新庄金山道路（金山地区）用地調査 等業務	（主任担当者） 村 形 義 信	山形県 寒河江市	山 形 河川国道	補 償
いであ（株） 山形営業所	最上川水系洪水予測システム構築業務	（管理技術者） 滝 口 大 樹	山形県 山形市	山 形 河川国道	土 木 （河川）
パシフィックコンサルタンツ（株） 山形事務所	最上川上流環境整備測量設計業務	（管理技術者） 堀 合 孝 博	山形県 鶴岡市	山 形 河川国道	土 木 （河川）
（株）オリエンタルコンサルタンツ 山形事務所	泉田大橋詳細設計業務	（管理技術者） 審 良 郁 夫	山形県 山形市	山 形 河川国道	土 木 （橋梁）
新和設計（株）	山形河川国道事務所管内道路台帳図 整備業務	（主任技術者） 齋 藤 恵 太	山形県 米沢市	山 形 河川国道	測 量
セントラルコンサルタント（株） 東北支社山形営業所	遊佐地区構造検討業務	（管理技術者） 佐 藤 宗 孝	山形県 山形市	酒 田 河川国道	土 木 （道路）
（株）復建技術コンサルタント 山形支店	酒田管内構造物点検業務	（管理技術者） 平 野 至 史	山形県 山形市	酒 田 河川国道	土 木 （道路）

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株) 建設環境研究所 東北支社	庄内地区環境基礎調査業務	(管理技術者) 佐 藤 功 一	仙台市 宮城野区	酒 田 河川国道	土 木 (環境調査)
三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社	さみだれ大堰ゲート更新詳細設計等 業務	(管理技術者) 平 和 博	仙台市 青葉区	酒 田 河川国道	土 木 (河川)
応用地質 (株) 東北支社	酒田管内防災点検業務	(管理技術者) 境 正 樹	仙台市 宮城野区	酒 田 河川国道	土 木 (道路)
(株) 建設技術研究所 東北支社	銅山川流域ほか流木対策等検討業務	(管理技術者) 古 山 剛	仙台市 青葉区	新庄河川	土 木 (砂防・地すべり)
パシフィックコンサルタンツ(株) 山形事務所	最上川中流蔵岡地区浸水被害調査解 析等業務	(管理技術者) 佐久間 謙史	山形県 鶴岡市	新庄河川	土 木 (河川)
日本工営 (株) 福島事務所	福島管内道路構造物点検補修設計業務	(管理技術者) 山 田 知 寛	福島県 福島市	福 島 河川国道	土 木 (道路)
(株) 建設技術研究所 東北支社	阿武隈川上流河川環境整備検討業務	(管理技術者) 永 由 元 人	仙台市 青葉区	福 島 河川国道	土 木 (河川)
新和設計 (株)	阿武隈川水系砂防施設巡視業務	(管理技術者) 高 橋 真 司	山形県 米沢市	福 島 河川国道	測 量
セントラルコンサルタント(株) 東北支社 福島営業所	福島管内交差点外設計業務	(管理技術者) 野 村 徹	福島県 福島市	福 島 河川国道	土 木 (道路)
(株) 福山コンサルタント 福島営業所	福島管内渋滞対策検討業務	(管理技術者) 鈴 木 天	福島県 福島市	福 島 河川国道	土 木 (道路)
中央復建コンサルタンツ (株) 福島営業所	掛田橋における建設プロセス改善検 討業務	(管理技術者) 森 彩	福島県 福島市	福 島 河川国道	土 木 (道路)
福島管内休憩施設連携調査業 務建設技術研究所・日本みち 研究所設計共同体	福島管内休憩施設連携調査業務	(管理技術者) 加 藤 宣 幸	仙台市 青葉区	福 島 河川国道	土 木 (道路)
陸奥テックコンサルタント(株)	東北中央自動車道台帳整備業務	(管理技術者) 武 藤 吉 秀	福島県 郡山市	福 島 河川国道	測 量
相馬福島道路(霊山～福島) 事業監理業務セントラル・大 林・公共用地補償機構・鴻池 設計共同体	相馬福島道路(霊山～福島) 事業監理 業務	(管理技術者) 松 本 隆 宏	福島県 福島市	福 島 河川国道	土 木 (その他(発注者支援))
(株) 建設技術研究所 東北支社	阿武隈川上流河川整備検討業務	(管理技術者) 鈴 木 正 規	仙台市 青葉区	福 島 河川国道	土 木 (河川)
(株) 復建技術コンサルタント 福島支店	湯野上バイパス橋梁設計業務	(管理技術者) 鈴 木 勝 浩	福島県 郡山市	郡山国道	土 木 (橋梁)
(株) 福山コンサルタント 福島営業所	郡山国道管内整備効果検討業務	(管理技術者) 石 倉 麻 志	福島県 福島市	郡山国道	土 木 (道路)
(株) 建設技術研究所 福島事務所	郡山管内測量設計業務	(管理技術者) 佐 藤 和 樹	福島県 福島市	郡山国道	土 木 (道路)
(株) ダイヤコンサルタント 東北支社	郡山国道管内トンネル点検業務	(管理技術者) 水 島 秀 明	仙台市 青葉区	郡山国道	土 木 (トンネル)
日本工営 (株) 福島営業所	県南地区外環境予測調査業務	(管理技術者) 小 島 淳	福島県 福島市	郡山国道	土 木 (環境調査)
(株) 長大 福島事務所	広瀬地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 黒 澤 勝 敏	福島県 郡山市	郡山国道	土 木 (橋梁)
(株) 復建技術コンサルタント 福島支店	磐城管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 飯 土 井 剛	福島県 郡山市	磐城国道	土 木 (橋梁)
国際航業 (株) 福島営業所	磐城管内道路土工構造物測量設計業務	(管理技術者) 近 藤 敏 光	福島県 郡山市	磐城国道	土 木 (道路)
(株) 東コンサルタント	磐城地区調査設計業務	(管理技術者) 芳 賀 誠 二	福島県 いわき市	磐城国道	土 木 (道路)
川崎地質 (株) 福島営業所	磐城地区軟弱地盤解析業務	(主任技術者) 大 坪 智 博	福島県 福島市	磐城国道	地質調査

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株) パスコ 福島支店	いわき地区図化業務	(主任技術者) 山内 智弘	福島県 福島市	磐城国道	測 量
応用地質 (株) 東北事務所	浅瀬石川ダム水辺現地調査 (陸上昆虫類等) 業務	(管理技術者) 藤田 大知	仙台市 宮城野区	岩木川ダム 統合管理	土 木 (環境調査)
北上川ダム堆砂対策検討業務 建設技術研究所・水源地環境 センター設計共同体	北上川ダム堆砂対策検討業務	(管理技術者) 高塚 哲	仙台市 青葉区	北上川ダム 統合管理	土 木 (ダム)
田瀬ダム水質検討業務建設環 境研究所・水源地環境センター 設計共同体	田瀬ダム水質検討業務	(管理技術者) 佐藤 隆善	東京都 豊島区	北上川ダム 統合管理	土 木 (ダム)
(株) アサノ大成基礎エンジニ アリング 盛岡事務所	四十四田ダム堆積物調査	(主任技術者) 遠藤 則夫	岩手県 盛岡市	北上川ダム 統合管理	地質調査
(株) 寒河江測量設計事務所	寒河江ダム流量観測及び採水等調査	(主任技術者) 鈴木 誠	山形県 寒河江市	最上川ダム 統合管理	測 量
(株) ニュージェック 山形事務所	長井ダム堤体モニタリング業務	(管理技術者) 大野 健一	山形県 山形市	最上川ダム 統合管理	土 木 (ダム)
(株) 建設技術研究所 東北支社	最上川ダム統管機械設備改修設計業務	(管理技術者) 岡本 修	仙台市 青葉区	最上川ダム 統合管理	土 木 (ダム)
(株) 復建技術コンサルタント	釜房ダム水辺現地調査 (陸上昆虫類) 業務	(管理技術者) 高田 英司	仙台市 青葉区	釜房ダム	土 木 (環境調査)
応用地質 (株) 東北事務所	七ヶ宿ダム水辺現地調査 (陸上昆虫 類等) 業務	(管理技術者) 播磨 さおり	仙台市 宮城野区	七ヶ宿ダム 管 理 所	土 木 (環境調査)
応用地質 (株) 秋田営業所	玉川ダム水辺現地調査 (陸上昆虫類 等) 業務	(管理技術者) 西田 守一	秋田県 秋田市	玉川ダム 管 理 所	土 木 (環境調査)
(株) 総合技術コンサルタント 東北支店	玉川ダム管理橋耐震補強詳細設計業務	(管理技術者) 明石 直光	仙台市 青葉区	玉川ダム 管 理 所	土 木 (橋梁)
応用地質 (株) 福島営業所	三春ダム水辺現地調査 (陸上昆虫類) 業務	(管理技術者) 沖津 二郎	福島県 福島市	三春ダム 管 理 所	土 木 (環境調査)
(株) 建設技術研究所 東北支社	三春ダム放流警報設備設計業務	(管理技術者) 濱田 和朗	仙台市 青葉区	三春ダム 管 理 所	土 木 (電気通信)
パシフィックコンサルタンツ (株) 東北支社	東北東部地区河川管理施設点検調査 業務	(管理技術者) 森田 大作	仙台市 青葉区	東北技術	土 木 (河川)
国際航業 (株) 仙台支店	グラウンドアンカー点検・検討業務	(管理技術者) 近藤 敏光	仙台市 若林区	東北技術	土 木 (道路)
(株) パスコ 盛岡支店	釜石港水路測量	(管理技術者) 牧本 貴夫	岩手県 盛岡市	釜石港湾	港 湾 (測量)

〔支部だより〕

10月2日（火）

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) J C C A TOHOKU58校正

10月3日（水）

福島県土木部職員専門研修「監督業務（設計）」

へ講師派遣

講 師／橋本 智雄（中央開発株）

10月4日（木）

RCCM登録更新講習会

場 所／ホテルメトロポリタン仙台

主 催 本 部 受講者328名

10月10日（水）

秋田県との意見交換会

場 所／アキタパークホテル

秋田県 佐藤 建設技監 他 6名

協 会 菅原支部長 他 20名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) そ の 他

10月12日（金）

河川・環境専門委員会合同現場見学会

主 催 技術部会 河川・環境専門委員会

参加者 42名

10月16日（火）

品質セミナー「エラー防止」

場 所／ホテル法華クラブ仙台

主 催 本 部 受講者171名

10月22日（月）

宮城県との意見交換会（3団体合同）

（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部

（一社）宮城県測量設計業協会

（一社）全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

場 所／パレス宮城野

宮城県 櫻井 土木部長他 6名

協 会 菅原支部長他 3団体 41名

議 題／提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力重視による選定と入札制度に関する要望と提案
- (3) 品質の確保・向上
- (4) 各協会からの要望と提案

10月23日（火）

地盤・防災専門委員会合同現場見学会

主 催 技術部会 地盤・防災専門委員会

参加者13名

10月24日（水）

構造・道路専門委員会合同現場見学会

主 催 技術部会 構造・道路専門委員会

参加者 44名

10月23日（火）～24日（水）

東北地方整備局「道路行政（計画）研修」へ講師派遣

講 師／岡田 篤（大日本C株）

前田 修（中央C株）

小島 淳（日本工営株）

10月24日（水）

山形県との意見交換会

場 所／山形県自治会館

山形県 角湯 県土整備部長他 9名

協 会 菅原支部長他 23名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) 自由討議

支部だより

10月25日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 講習会WGの報告
(2) 来年度の予算について
(3) そ の 他

10月30日(火)

東北地方整備局との意見交換会

場 所／合同庁舎 B棟 12階 大会議室

整備局 西尾 企画部長 他8名

協 会 菅原 支部長 他18名

議 題／建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備（受
発注者共同による就業環境改善に向けて
の取り組み）について
(2) 技術力による選定について
(3) i-Construction の取り組みについて

10月30日(火)

福島県土木部職員専門研修「土木中堅」

へ講師派遣

講 師／佐藤 和憲（陸奥テックC(株)）
前田 修（中央C(株)）
高坂 保孝加（(株)建設技術研究所）

協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、
公益社団法人日本技術士会東北支部他
参加者 講演会281名、式典182名、祝賀会173名

10月30日(火)～11月1日(木)

東北地方整備局「河川構造物（河川・ダム）研修」

へ講師派遣

講 師／安達 和徳（応用地質(株)）
遠藤 伸二（(株)ニュージェック）
村上 幸治（(株)エイト日本技術開発）
竹岡 数司（いであ(株)）
栗飯原 稔（八千代E(株)）
松尾 新二郎（日本工営(株)）

11月1日(木)

RCCM試験監督員説明会

場 所／(株)復建技術C 会議室

11月2日(金)

50周年実行委員会

場 所／支部会議室

11月2日(金)

技術部会（各専門委員長）

場 所／支部会議室

11月5日(月)

青森県との意見交換会

場 所／アラスカ

青森県 福士 県土整備部長他 10名

協 会 菅原支部長他 18名

議 題／建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) そ の 他

11月8日(木)

仙台市との意見交換会

場 所／仙台市役所会議室

仙台市 小野 都市整備局長他 6名

協 会 菅原支部長他 21名

議 題／建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力重視による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) そ の 他

11月9日(金)

支部創立50周年記念講演会・式典・祝賀会

場 所／ホテルメトロポリタン仙台

講 演／「どうなる日本・どうなる東北」

読売新聞特別編集委員 橋本 五郎 氏

主 催 （一社）建設コンサルタンツ協会東北支部広報委員会

後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、
日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、
日刊建設通信新聞社、建設新聞社

11月11日(日)

平成30年度RCCM資格試験

場 所／東北工業大学

10:00～16:45

主 催 （社）建設コンサルタンツ協会
(受験者数 仙台会場 479名)

11月15日(木)

技術部会（各専門委員長）

場 所／支部会議室

11月16日(金)

建コンボウリング大会

場 所／仙台プレイボウル 参加者 32名

主 催 総務部会

11月20日(火)

河川講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会(河川専門委員会)

受講者 90名

11月21日(水)～12月21日(金)

技術士模擬面接

主 催 技術部会

11月27日(火)

福島県との意見交換会

場 所／杉妻会館

福島県 鈴木 土木部技監 他 7名

協 会 菅原支部長他 23名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) その他(自由討議)

11月28日(水)

ICTセミナー

場 所／パレス宮城野

主 催 本部 情報部会・ICT委員会・ICT普及専門委員会

支部 情報部会 受講者 118名

11月30日(金)

若手の会交流会

場 所／戦災復興記念館

主 催 総務部会 若手の会 参加者 55名

12月5日(水)

構造・道路専門委員会合同技術講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 構造・道路専門委員会

受講者 95名

12月6日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 各WG活動報告について

(2) 連絡掲示板の移行について

(3) その他

12月10日(月)

第6回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 平成31年度事業計画及び予算(案)について

(2) 各部会・委員会からの連絡事項

(3) その他

12月12日(水)

技術部会(道路専門委員会)

場 所／支部会議室

12月18日(火)

50周年実行委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 50周年記念誌作成について

12月19日(水)

「働き方改革」セミナー

場 所／パレス宮城野

主 催 本部 働き方改革推進本部 参加者 160名

12月19日(水)

講演会「最近の建設コンサルタントを巡る状況等について」

場 所／パレス宮城野

講 師 本部 酒井 顧問 参加者 121名

12月19日(水)

支部忘年会

場 所／パレス宮城野

主 催 総務部会 出席者 120名

12月19日(水)～20日(木)

ふくしま市町村支援機構「市町村建設事業担当

職員研修」へ講師派遣

講 師／中居 英樹(応用地質(株))

山部 哲(株)建設技術研究所)

石井 一人(パシフィックC(株))

12月25日(火)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 意見交換会総括について

(2) ウィクリースタンス周知・秋田県打ち合わせ

(3) 来年度活動方針(案)

支部だより

1月16日(水)

平成30年度環境セミナー

場 所／TKP ガーデンシティ仙台

主 催 技術部会(環境専門委員会)

受講者59名

2月5日(火)

第7回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 平成30年度「本部・支部」意見交換会
について

(2) 各部会・委員会からの連絡事項

(3) そ の 他

2月7日(木)～8(金)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」

へ講師派遣

講 師／向江 正夫(株)東京建設C)

石井 一人(パシフィックC(株))

2月8日(金)

技術部会(各専門委員長)

場 所／支部会議室

議 題／(1) 2019年度技術部会事業計画について

(2) ICT専門委員会の設置について

(3) 平成30年度意見交換会総括

2月14日(木)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1) 本部地域コンサルタント委員会の報告

(2) 本部・支部意見交換会について

講話:「公共事業を取り巻く最近の話題について」
東北地方整備局 企画部 技術調整管理官

樋口 和則 氏

2月14日(木)

第17回 高校生「橋梁模型」作品発表会

場 所／せんだいメディアテーク

主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会

(当支部他5団体共催)

2月18日(月)

地盤・防災専門委員会合同技術講習会

場 所／パレス宮城野

主 催 技術部会 地盤・防災専門委員会

受講者 42名

2月21日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 平成31年度情報部会事業計画(案)に
ついて

(2) 各WGの活動報告について

(3) そ の 他

2月28日(木)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 本部・支部意見交換会について

(2) 秋田県意見交換会事項の打ち合わせ結果

(3) そ の 他

3月5日(火)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／パレス宮城野

本 部 村田会長 他 12名

支 部 菅原支部長 他 24名

議 題／1. 2019年度「要望と提案」(案)について

2. 2019年度「白書」(第一次原稿)について

3. 支部からの提案

4. そ の 他

4月9日(火)

平成30年度会計監査

場 所／支部会議室

4月9日(火)

第1回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 平成31年度支部総会について

(2) 各部会・委員会からの連絡事項

(3) その他

4月23日(火)

役員会

場 所／パレス宮城野

議 題／(1) 平成31年度支部定時総会について

(2) その他

4月23日(火)

平成31年度支部定時総会

場 所／パレス宮城野

議 題／(1) 平成30年度事業報告について
(2) 令和元年度事業計画について
(3) 令和元年度収支予算書について
(4) 平成30年度決算報告について
(5) 役員の選任について
そ の 他

103社中 74社出席

4月23日(火)

定時総会講演会

場 所／パレス宮城野

講 演：「東北の復興なくして日本の再生なし」
～東北を「つなぐ」「まもる」「みせる」～
東北地方整備局 局長 高田 昌行 氏
参加者140名

4月23日(火)

定時総会懇親会

場 所／パレス宮城野

参加者163名

4月24日(水)

第1回総務部会

場 所／事務局会議室

議 題／(1) 年間行事予定及び担当について
(2) その他

4月26日(金)

若手の会

5月13日(月)

第1回対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 建設コンサルタントの要望と提案について
(2) ウィクリースタンスの取り組み、アンケート協議
(3) その他

5月16日(木)

技術部会(各専門委員長)

場 所／支部会議室

議 題／(1) 技術部会総会について
(2) 各部会からの報告
(3) その他

5月16日(木)

宮城県建設センター「建設技術者のための基礎研修・2」
へ講師派遣

講 師／今村 隆弘(株)復建技術C)
安達 和徳(応用地質株)
山口 淳熙(大日本C株)

5月17日(金)

技術部会構造専門委員会

場 所／支部会議室

5月23日(木)

第1回情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) CIM ハンズオン研修の概要について
(2) WG活動体制・活動予定について
(3) その他

5月29日(水)

技術部会総会

場 所／ハーネル仙台

議 題／(1) 平成30年度事業報告について
(2) 平成30年度各専門委員会活動報告
(3) 令和元年度事業計画(案)及び予算
(4) 令和元年度各専門委員会委員の承認
(5) その他
出席者 89名

6月4日(火)

第2回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 役員改選について
(2) 50周年記念事業及び「近未来の提言」
関係について
(3) その他

6月5日(水)～6日(木)

EE東北'19

場 所／夢メッセみやぎ

入場者 2日間延べ人数 16,500名

6月7日(金)

三次元CADハンズオン講習会

場 所／アーク仙台ビル会議室

主 催 東北支部 情報部会

受講者 初級20名、中級19名

支部だより

6月11日（火）

第1回広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) JCCATOHOKU の編集について
(2) 令和元年度講演会について
(3) その他

6月12日（水）

宮城県防災訓練

6月12日（水）

技術部会構造専門委員会

場 所／支部会議室

6月21日（金）

第1回地域コン委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) ウィクリースタンスの取り組みについて
(2) 本部地域コン委員会の報告
(3) その他

6月25日（火）～26日（水）

青森県建設技術センター平成30年度「土質研修会」
へ講師派遣

講 師／安達 和徳（応用地質株）
山田 満秀（株ダイヤC）
今村 隆弘（株復建技術C）
山口 淳熙（大日本C株）

7月1日（月）～2日（火）

東北土木技術人材育成協議会「第1回基礎技術講習会」
へ講師派遣

7月2日（火）

第3回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 令和元年度本部・整備局意見交換会について
(2) 建コン・リクルート用スライド
(3) 各部会・委員会からの提案議題・連絡事項

7月9日（火）

「マネジメントセミナー」

場 所／ホテル法華クラブ仙台

主 催 本部 受講者126名

7月10日（水）～12日（金）

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」へ講師派遣
講 師／北原 一彦（株オリエンタルC）

船山 淳（パシフィックC株）

山口 淳熙（大日本C株）

早乙女 勉（日本工営株）

細谷 健介（新和設計株）

向江 正夫（株東京建設C）

7月17日（水）

対外活動委員会WG

7月17日（水）

2019年度東北地方整備局国土交通行政関係

功労者表彰式

東北地方整備局では国土交通行政関係功労者に対し
て表彰式を行っています。

本年度は優良業務施行会社、災害対策功労者として、
次の会員の方々が受賞されました。

誠にありがとうございます。

〔優良業務施行会社〕

(株)ケー・シー・エス

青森管内交通計画検討業務

(株)復建技術コンサルタント

青森管内交通計画検討業務

いであ(株) 青森営業所

岩木川樹木管理計画検討業務

(株)建設技術研究所 東北支社

小川原湖水環境対策効果検討業務

パシフィックコンサルタンツ(株) 盛岡事務所

火山噴火緊急減災対策検討業務

(株)パスコ 盛岡支店

北上川上流地形図等作成業務

(株)復建技術コンサルタント 盛岡支店

宮古盛岡地区水文調査

エイト技術(株)

田野畑久慈地区外用地調査等業務

(株)復建技術コンサルタント

復興道路等の整備による経済波及効果検討業務

日本工営(株) 北東北事務所

三陸北地区水文調査

三井共同建設コンサルタント(株)

三陸沿岸道路事業監理業務（吉浜釜石工区）

(株)長大

三陸沿岸道路事業監理業務（陸前高田工区）

(株)ドーコン

三陸沿岸道路事業監理業務（陸前高田工区）

(株)ウヌマ地域総研

三陸沿岸道路事業監理業務（陸前高田工区）

(株)福山コンサルタント 東北事業所
南三陸整備効果検討業務
(株)三和技術コンサルタント
気仙沼唐桑南地区用地調査等業務
(株)近代設計
仙台河川国道管内交通安全事業外監理業務
三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社
善川遊水地等詳細設計業務
パシフィックコンサルタンツ(株)
北上川下流管内河口部堤防復旧施工監理設計業務
(株)建設技術研究所 東北支社
鳴瀬川総合開発基本計画検討業務
(株)東京建設コンサルタント 東北支社
雄物川下流河道整備検討業務
(株)長大 仙台支社
秋田管内橋梁調査設計業務
(株)復建技術コンサルタント 秋田支店
役内川橋詳細設計業務
セントラルコンサルタント(株) 東北支社秋田営業所
二ツ井今泉道路詳細設計業務
(株)日本工営 秋田営業所
鳴瀬ダムダムサイト周辺地質検討業務
(株)ウスマ地域総研
鳥海ダム付替道路予備修正設計業務
(株)福山コンサルタント 東北支社
山形管内交通量推計業務
(株)三和技術コンサルタント
最上川上流流量調査・縦横断測量(村山地区)
(株)ドーコン 東北支店
日本海沿岸東北自動車道事業認定申請図書作成業務
(株)ニュージェック 山形事務所
新庄管内土砂災害発生降雨解析検討業務
セントラルコンサルタント(株) 東北支社福島営業所
藤地区橋梁詳細設計業務
(株)建設環境研究所
郡山国道管内構造物外点検業務
(株)三協技術
郡山国道管内構造物外点検業務
(株)三和技術コンサルタント
勿来バイパス物件調査業務
(株)新和設計
白川ダム流量観測及び採水等調査
陸奥テックコンサルタント(株)
三春ダム水文観測等業務
応用地質(株) 東北事務所
摺上川ダム水辺現地調査(陸上昆虫類等)業務
日本工営(株) 仙台支店
河道特性把握検討業務

(株)長大 仙台支社
道路交通の円滑化に向けた調査検討業務
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社
既存係留施設における重量物取扱いに関する設計検討業務

7月18日(木)

第2回情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 元年度 情報部会行動確認について
(2) 講習会について
(3) その他

7月18日(木)

福島県土木部職員専門研修「成果品のエラー防止
について(土木)」へ講師派遣
講 師／佐藤 和憲(陸奥テックC(株))

7月19日(金)

第2回総務部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 行事の確認
(2) その他

7月22日(月)

本部・整備局意見交換会

東北地方整備局 佐藤局長 他16名
本部 高野会長 他15名
支部 菅原支部長 他8名

議 題

1. 令和元年度建設コンサルタントの要望と提案
2. 意見交換

7月24日(水)～25日(木)

CIMハンズオン講習会

場 所／アーク仙台ビル会議室

主 催 本部 情報部会 ICT委員会 CIM技術専門委員会
東北支部 情報部会
受講者 24日 19名、25日 19名

7月24日(水)～26日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」へ講師派遣

講 師／北原 一彦(株)オリエンタルC)
船山 淳(パシフィックC(株))
山口 淳熙(大日本C(株))
早乙女 勉(日本工営(株))
細谷 健介(新和設計(株))
向江 正夫(株)東京建設C)

支部だより

7月26日(金)

技術部会環境専門委員会

場 所／支部会議室

8月2日(金)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) ウィクリースタンスの取り組みについて
(2) 各県意見交換会について
(3) その他

8月6日(火)

第2回技術部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 事業推進PPPの取り組み
(2) 各専門委員会からの報告
(3) その他

8月6日(火)

ふくしま市町村建設事業等担当職員研修「CBRと
路盤・舗装の設計」へ講師派遣

講 師／兒玉 浩行 (株)エイト日本技術開発)

8月8日(木)・9日(金)

G I S講習会

場 所／アーク仙台ビル 会議室

主 催 本部 情報部会 ICT委員会 ICT普及専門委員会
支部 情報部会

受講者 8日 14名・9日 15名

8月21日(水)

福島県土木部職員専門研修「新技術(CIMについて)」
へ講師派遣

講 師／三浦 康孝 (セントラルC(株))
佐久間 謙史 (パシフィックC(株))

8月22日(木)

宮城県建設センター「橋梁維持・補修研修」

へ講師派遣

講 師／石井 一人 (パシフィックC(株))

8月27日(火)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1) 本部地域コンサルタント委員会の報告
(2) 本部・整備局意見交換会について

講演会「CIMの概要と事例紹介」

講師：技術部会 ICT専門委員長 市川 健 氏

8月29日(木)・30日(金)

G I S講習会

場 所／アーク仙台ビル 会議室

主 催 本部 情報部会 ICT委員会 ICT普及専門委員会
支部 情報部会

受講者 29日 19名・30日 19名

8月29日(木)

福島県土木部職員専門研修「舗装の調査・評価
について」へ講師派遣
講 師／深瀬 貴之 (株)ニュージェック)

8月29日(木)

岩手県土木技術専門研修「橋梁点検」へ講師派遣

講 師／石橋 努 (株)復建技術C)

9月2日(月)

災害時対応演習 [11:00~15:00]

11:00 関東支部管内においてマグニチュード8の
大規模地震が発生し、東北支部に災害対策支部を設置
したとの想定で災害対策支部員を招集。

会員の被災状況を把握するため、予め決めていた連
絡会員会社14社へ携帯電話により被害状況照会、会
員より被害状況をFAXにより受信。

また、被災現地への派遣のため、予め決めていた災
害現地調査派遣会員12社と協議・派遣等の訓練を実
施した。

9月3日(火)~6日(金)

岩手県土木技術専門研修「地質、道路・河川計画
第1期」へ講師派遣

講 師／山田 満秀 (株)ダイヤC)
高田 正治 (株)エイト日本技術開発)
佐々木 誉 (東邦技術(株))
秋山 和也 (八千代E(株))
岡田 篤 (大日本C(株))
木村 重喜 (株)オリエンタルC)

9月4日(水)

東北地方整備局道路構造物技術セミナーへ講師派遣

講 師／石井 一人 (パシフィックC(株))

9月6日(金)

独占禁止法研修会・働き方改革講演会

場 所／建設産業会館

講 師／公益財団法人 公正取引協会

客員研究員 杉浦 総一郎 氏

キラリ社会保険労務士法人 代表社員

社会保険労務士 金田 龍児 氏

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部、

(一社) 宮城県測量設計業協会、

(一社) 日本補償コンサルタント協会東北支部、

(公社) 全国上下水道コンサルタント協会東北支部、

(一社) 東北測量設計協会、

(一社) 東北地質調査業協会、6団体の共催

出席者305名(建コン会員120名)

9月6日(金)

東北地方整備局と若手の会の交流会

東北地方整備局 10名、建コン若手の会 10名

9月9日(月)～10日(火)

福島県土木部職員専門研修「長寿命化修繕計画」

へ講師派遣

講 師／石井 一人(パシフィックC株)

三浦 俊史(株近代設計)

櫻井 寿樹(中央C株)

山下 智士(株復建技術C)

9月13日(金)

第4回対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 各県との意見交換会資料の事前確認

(2) その他

9月18日(水)

技術部会(河川・環境専門委員会)

場 所／支部会議室

9月19日(木)

第3回情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 各講習会について

(2) その他

9月20日(金)

技術部会(道路専門委員会)

場 所／支部会議室

9月24日(火)～27日(金)

岩手県土木技術専門研修「地質、道路・河川計画

第2期」へ講師派遣

講 師／山田 満秀(株ダイヤC)

高田 正治(株エイト日本技術開発)

堀合 孝博(パシフィックC株)

佐藤 亮(株菊池技研C)

岡田 篤(大日本C株)

木村 重喜(株オリエンタルC)

9月24日(火)

山形県県土整備部建設マネジメント研修Ⅱ(応用編)」

へ講師派遣

講 師／伊藤 信生(株庄内測量設計舎)

9月25日(水)

第2回広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 令和元年度講演会最終確認

(2) JCCATOHOKU 次号発刊打ち合わせ

(3) その他

9月25日(水)

技術担当者会議

場 所／ハーネル仙台

主 催 支部 技術部会

受講者 55名

9月26日(木)

宮城県土木部職員研修「河川実務演習」へ講師派遣

講 師／柴崎 進(株復建技術C)

9月27日(金)

東北地方整備局防災訓練

9月27日(金)

RCCM登録更新講習会

場 所／ホテルメトロポリタン仙台

主 催 本 部

受講者343名

9月28日(土)

建コン交流会(ニッカウキスキー工場見学&BBQ)

場 所／ニッカウキスキー仙台工場

主 催 総務部会

参加者 49名

[会員の動向]

◆ 新入会員の紹介

令和元年9月1日入会 (株)アルファ水工コンサルタンツ 仙台事務所
所 長 阿部 勝美
〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27
TEL 022-207-5300 FAX 022-207-5301

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

平成30年10月1日 バシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社
支社長 木村 誠

平成30年10月1日 (株)復建エンジニアリング 東北支社
支社長 大橋 忠夫

平成31年4月1日 いであ(株) 東北支店
支店長 小澤 宏二

平成31年4月1日 応用地質(株) 東北事務所
所 長 江本 満

平成31年4月1日 国土防災技術(株) 東北支社
支社長 高橋 裕明

令和元年6月1日 (株)ドーコン 東北支店
支店長 野田 敬一

令和元年6月20日 (株)東北開発コンサルタント
社 長 千釜 章

令和元年7月1日 (株)福山コンサルタント 東北支社
支社長 石倉 麻志

◆ 名称変更

平成31年4月1日 (株)日本インシーク 東北支店
(旧 (株)アスコ大東 東北支店)

◆ 住所変更

令和元年7月29日 中電技術コンサルタント(株) 東北営業所
〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15
TEL 022-397-8173(変更なし) FAX 022-748-7763(変更なし)

※ 会員の動向は建コン東北支部事務局にお知らせがあった会員のみ掲載しております。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員 10月1日現在 103社

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	
(株) アーバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アルファ水工コンサルタンツ	仙台事務所	〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27	022-207-5300
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
(株)エー・ス	仙台営業所	〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208	022-797-9718
応用地質(株)	東北事務所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタント	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタック	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-2235
(株)近代設計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-292-6012
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6861
(株)コウキコンサルタント	本社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)サトー技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311
J R東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	
(株) 創 研 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 綜 合 技 術 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191
創 和 技 術 (株)	本 社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
玉 野 綜 合 コ ン サ ル タ ン ト (株)	仙 台 支 店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-716-6646
(株) 田 村 測 量 設 計 事 務 所	本 社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第 一 復 建 (株)	仙 台 事 務 所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダ イ エ ツ	本 社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大 日 コ ン サ ル タ ン ト (株)	仙 台 事 務 所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大 日 本 コ ン サ ル タ ン ト (株)	東 北 支 社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株) ダ イ ヤ コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大 和 工 営 (株)	本 社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地 圏 綜 合 コ ン サ ル タ ン ト	仙 台 支 店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6466
中 央 開 発 (株)	東 北 支 店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中 央 技 術 コ ン サ ル タ ン ツ	東 北 支 店	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4	022-375-6787
中 央 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	仙 台 支 店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中 央 復 建 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	東 北 支 社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中 電 技 術 コ ン サ ル タ ン ト (株)	東 北 営 業 所	〒981-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-397-8173
(株) 長 大	仙 台 支 社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千 代 田 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) 東 京 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東 京 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	東 北 支 店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東 建 工 営	本 社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) ト ー ニ チ コ ン サ ル タ ン ト	東 北 事 務 所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ド ー コ ン	東 北 支 店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東 邦 技 術 (株)	本 社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東 北 開 発 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東 北 構 造 社	本 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
(株) 土 木 技 研	本 社	〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20	019-638-8131
日 栄 地 質 測 量 設 計 (株)	本 社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日 水 コ ン	東 北 支 所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
(株) 日 本 イ ン シ ー ク	東 北 支 店	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1	022-724-7530
日 本 工 営 (株)	仙 台 支 店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株) 日 本 構 造 橋 梁 研 究 所	東 北 支 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-713-6657
(株) 日 本 港 湾 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日 本 振 興 (株)	東 北 支 店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株) ニ ュ ー ジ ェ ッ ク	東 北 支 店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東 北 支 社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パ ス コ	東 北 事 業 部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東 日 本 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福 田 水 文 セ ン タ ー	東 北 営 業 所	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18	022-224-1417
(株) 福 山 コ ン サ ル タ ン ト	東 北 支 社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富 士 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	仙 台 支 店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふ た ば	本 社	〒963-1111 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央592	0240-22-0261
(株) 双 葉 建 設 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株) 復 建 エ ン ジ ニ ヤ リ ン グ	東 北 支 社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株) 復 建 技 術 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復 建 調 査 設 計 (株)	東 北 支 店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三 井 共 同 建 設 コ ン サ ル タ ン ト (株)	東 北 支 社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸 奥 テ ッ ク コ ン サ ル タ ン ト (株)	本 社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八 千 代 エ ン ジ ニ ヤ リ ン グ (株)	北 日 本 支 店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 横 浜 コ ン サ ル テ ィ ン グ セ ン タ ー	仙 台 支 店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-262-1493

編集後記

盛会のうちに終えることが出来ました「東北支部創立50周年式典・祝賀会」より1年が経ちました。ご参加、ご協力いただきました皆様に、改めて感謝申し上げます。

おかげさまをもちまして、新たな年「令和」を迎えました今年5月には、「創立50周年記念誌」を発行することが出来ました。広報委員会も令和の時代とともに、新たな気持ちで活動を行って参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

さて、9月に入りようやく過ごしやすくなりましたが、今年の夏は7月の初めの頃の冷夏となるのではとの心配が一転、猛暑となり厳しい暑さが続きました。

東北各地で執り行われました夏まつりは、今年は天候に影響されることもなく無事、執り行われたようです。天候にも恵まれたことで果物王国であるこの東北では、イチゴ、サクランボ、桃、ブドウ、梨へと順調に収穫がなされ、そしてリンゴへと楽しみが続いております。

一方西日本では、台風や線状降水帯の発生による大雨の被害に連続して見舞われ、これらの報道を見るにつけ、災害国日本における「備え」の重要性を改めて感じさせられるところ。被災されました西日本の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

本誌が発行される頃には、ラグビーワールドカップが開催され、開催地である釜石市はじめ、東北でも盛り上がりを見せていることと思います。また、いよいよ来年8月には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。暑さ対策など課題となっておりますが、先行抽選にすべて落選してしまった私は、再トライはせずに「オリンピックは涼しいところでテレビ観戦することが一番」と決め込むこととしました。前回の昭和39年開催時、小学校2年で白黒テレビを観戦し応援したことを思い出し、今の子供たちにもあの感動を体験してもらえればと願って止みません。

最後に、今年度の建設コンサルタンツ協会東北支部主催の講演会をご案内いたします。

多くの皆様にご来場いただきますことを期待いたしまして、編集後記とさせていただきます。

令和元年度講演会

「来て！観て！感じて！夢みて東北！」～ Many thanks for your support ～

開催日：令和元年11月19日（火）

開催場所：ホテル法華クラブ仙台 1階 ハーモニーホール

講師：中村 一郎 氏（三陸鉄道株式会社 代表取締役社長）

紺野 純一 氏（一般社団法人 東北観光推進機構 専務理事推進本部長）

（令和元年度9月 佐藤敏倫 記）

JCCA TOHOKU Vol.59

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11

アーク仙台ビル

TEL 022-263-6820

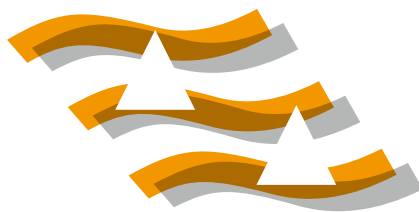
編集	広報委員長	木村 誠	
	副委員長	菊池 透	副委員長 佐藤 敏倫
	広報委員	大友 正樹	広報委員 佐藤 雅樹
	〃	大場 秀行	〃 遠藤 徹也
	〃	遠藤 敦	〃 真田 広之
	〃	海藤 剛	〃 高橋 伸彰
	〃	武田 浩幸	〃 横川 勝美
	〃	樋口 章大	〃 山本 真之

事務局 新野 俊晴・小川 みゆき

印刷 ハリウ コミュニケーションズ株式会社

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12

TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。